

**問題1**

天文11年(1542年)、家康公が生まれたとき、武田信玄21才、上杉謙信12才、織田信長は8才。では豊臣秀吉はこのとき何才だったでしょうか？

- (1) 25才
- (2) 6才
- (3) 家康公と同じ
- (4) まだ生まれていなかった

解答… (2)

**解説**

ある年を決め、キーマンたちの年齢を考え、歴史がより深く理解できます。この問題に登場した人々は全員が後に戦国大名となる人物たちで、武田信玄は6年前の天文5年(1536年)に初陣を終えています。他はまだ元服前でした。また、家康公と信長、家康公と秀吉の間の微妙な年齢差を考えると、織田の人質時代における家康公と信長の関係や、本能寺の変の後の秀吉が、家康公に強いライバル意識を持っていたわけが何となく理解できるのではないのでしょうか。



山岡荘八文学碑(岡崎公園)

山岡荘八氏の小説「徳川家康」は、家康公生誕時のライバルたちの年齢描写から始まります。本検定の第1問はここから出題されました。

**問題2**

家康公が生まれたころ、世界はどのような時代だったでしょうか？

- (1) チンギス・ハンがモンゴルを統一した時代
- (2) 大航海時代を経てヨーロッパ列強が世界に進出した時代
- (3) アメリカが独立戦争を終えた時代
- (4) イギリスで産業革命が始まった時代

解答… (2)

**解説**

15世紀にオスマン朝トルコが台頭すると、ヨーロッパ諸国にとって、陸路でのインドやアジアとの交易は困難となりました。キリスト教国であるこれら諸国は新たな交易ルートを海路に求め、アフリカに勢力を拡大し、アメリカ大陸ではスペインが1521年にアステカ文明を、1533年にはインカ文明を滅亡させ莫大な金銀を収奪しました。一方、ポルトガルは東南アジアに侵出し、1511年にマラッカに要塞を築き極東アジア貿易とキリスト教布教の足場としたのです。



日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエル画像

**問題3**

家康公が生まれたころ、日本はどのような時代だったのでしょうか？

- (1) 下剋上の戦国時代
- (2) 天皇を中心に京の都が栄えた時代
- (3) 南北朝の動乱時代
- (4) 町人文化が花開いた泰平の時代

解答… (1)

**解説**

応仁元年(1467年)に室町幕府の主導権争いから応仁の乱が勃発すると、これを契機に日本全国に戦乱が拡大し、下剋上の風潮とともに各地に戦国大名が台頭しました。乱の結果、室町幕府は有名無実化し、京の町は荒廃を極め、荘園制の崩壊により公家の力も急激に弱体化しました。家康公が生まれたのは生死をかけた戦が当たり前の時代だったのです。当時の農民や一般民衆は、力が弱い分いっそう平和な世の到来を望んでいたものと思われれます。



下剋上の申し子、北条早雲像  
(小田原城/小田原市)

**問題4**

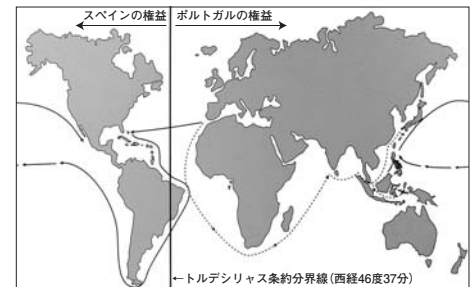
家康公が生まれた翌年には火縄銃が、7年後にはキリスト教が日本に伝えられましたが、これらを日本に伝えた国で、スペインと世界制覇を競っていた国はどこでしょうか？

- (1) アメリカ
- (2) イギリス
- (3) ポルトガル
- (4) ロシア

解答… (3)

**解説**

1494年にローマ教皇の仲介でスペインとポルトガルは『トルデシヤス条約』を結び、大西洋の中ほどに設けた南北の境界線を境に、西側をスペイン、東側をポルトガルの権益とし、非キリスト教国の征服と布教に乗り出しました。ヨーロッパ全土でカトリックとプロテスタントの凄惨な戦いが繰り返られるようになると、カトリック教国のスペインとポルトガルは、富の獲得と布教を目指した世界征服にさらに拍車をかけるようになりました。



トルデシヤス条約分界線

## 問題5

家康公が生まれたとき、<sup>み</sup>三河の<sup>しゅうこく</sup>小国・<sup>まつがいらけ</sup>松平家が頼<sup>たよ</sup>っていた<sup>だいにゆう</sup>大名はだれでしょうか？

- (1) <sup>あしかがよしあき</sup>足利義昭 (2) <sup>いまがわよしもと</sup>今川義元  
 (3) <sup>おだのぶひで</sup>織田信秀 (4) <sup>たけだしんげん</sup>武田信玄

解答… (2)

## 解説

<sup>てんぶん</sup>天文4年(1535年)、<sup>おわり</sup>尾張に<sup>ぐん</sup>軍をすすめた<sup>きよやす</sup>松平七代・<sup>もりやまじい</sup>清康が<sup>さなか</sup>守山城攻めの<sup>たお</sup>最中に倒れ<sup>けいせい</sup>ると<sup>いってん</sup>形勢は一転し、<sup>ちち</sup>尾張の<sup>ひろただ</sup>織田氏が<sup>おびや</sup>三河を脅かすよ<sup>う</sup>うになりました。父の<sup>ちち</sup>八代・<sup>ひろただ</sup>広忠の代になると<sup>いちぞくな</sup>松平<sup>しゅうどうけんあらた</sup>氏一族内の<sup>くわ</sup>主導権争いも<sup>せいりく</sup>加わり、<sup>の</sup>織田<sup>するが</sup>信秀の<sup>ちから</sup>勢力から<sup>え</sup>逃れるため、<sup>え</sup>駿河の<sup>え</sup>今川<sup>え</sup>義元の<sup>え</sup>力に<sup>え</sup>頼らざるを得<sup>え</sup>なくなっていました。

<sup>おきな</sup>幼い家康公は、<sup>みかた</sup>味方<sup>うらぎ</sup>の裏切りもあり<sup>さい</sup>6才<sup>さい</sup>から<sup>さい</sup>8才<sup>さい</sup>までは<sup>さい</sup>織田、<sup>さい</sup>以降<sup>さい</sup>19才<sup>さい</sup>までは<sup>さい</sup>今川<sup>さい</sup>の人質という<sup>さい</sup>小国の<sup>さい</sup>悲哀<sup>さい</sup>を<sup>さい</sup>肌で<sup>さい</sup>感じ<sup>さい</sup>ながら<sup>さい</sup>成長<sup>さい</sup>したのです。



今川義元像(臨濟寺/静岡市)

## 問題6

家康公が生まれたとき<sup>おかざきじゆう</sup>岡崎城に<sup>あらわ</sup>現れた、<sup>あらわ</sup>岡崎城の<sup>あらわ</sup>守り神とも<sup>あらわ</sup>いわれる<sup>あらわ</sup>空想上の<sup>あらわ</sup>動物で、<sup>あらわ</sup>岡崎城の<sup>あらわ</sup>別<sup>あらわ</sup>名にも<sup>あらわ</sup>なっている<sup>あらわ</sup>ものは<sup>あらわ</sup>なん<sup>あらわ</sup>で<sup>あらわ</sup>しょう<sup>あらわ</sup>か。

- (1) <sup>きりん</sup>麒麟 (2) <sup>ばく</sup>獭  
 (3) <sup>ほうおう</sup>鳳凰 (4) <sup>りゅう</sup>竜

解答… (4)

## 解説

岡崎城は別名『<sup>りゅう</sup>竜ヶ城』と呼ばれていま<sup>し</sup>し。岡崎城<sup>てんしゆかく</sup>天守閣に<sup>りんせつ</sup>隣接する<sup>たつ</sup>龍城<sup>じんじゃ</sup>神社の<sup>しゃ</sup>社<sup>のち</sup>記には<sup>のち</sup>「<sup>せい</sup>天文<sup>せい</sup>11年<sup>せい</sup>12月<sup>せい</sup>26日<sup>せい</sup>、<sup>せい</sup>後の<sup>せい</sup>征夷<sup>せい</sup>大将<sup>せい</sup>軍<sup>せい</sup>徳川<sup>せい</sup>家<sup>せい</sup>康公<sup>せい</sup>、<sup>せい</sup>幼名<sup>せい</sup>竹千代<sup>せい</sup>君<sup>せい</sup>此<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>城<sup>せい</sup>に<sup>せい</sup>産声<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>あげ<sup>せい</sup>給<sup>せい</sup>う。この<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>英雄<sup>せい</sup>児<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>生まれ<sup>せい</sup>出<sup>せい</sup>ざる<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>待<sup>せい</sup>つ<sup>せい</sup>が<sup>せい</sup>如<sup>せい</sup>く、<sup>せい</sup>城楼<sup>せい</sup>の上<sup>せい</sup>に<sup>せい</sup>雲<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>呼<sup>せい</sup>び<sup>せい</sup>風<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>招<sup>せい</sup>く<sup>せい</sup>金<sup>せい</sup>鱗<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>龍<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>見<sup>せい</sup>たり<sup>せい</sup>と<sup>せい</sup>云<sup>せい</sup>う」と、<sup>せい</sup>家康<sup>せい</sup>公<sup>せい</sup>生誕<sup>せい</sup>時<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>伝承<sup>せい</sup>が<sup>せい</sup>記<sup>せい</sup>され<sup>せい</sup>て<sup>せい</sup>いま<sup>せい</sup>す。

岡崎市の市章は<sup>おかさき</sup>竜の<sup>ししゅう</sup>3<sup>ししゅう</sup>本<sup>ししゅう</sup>爪<sup>ししゅう</sup>が<sup>ししゅう</sup>「岡」の<sup>ししゅう</sup>漢字<sup>ししゅう</sup>を<sup>ししゅう</sup>記<sup>ししゅう</sup>した<sup>ししゅう</sup>宝珠<sup>ししゅう</sup>をつ<sup>ししゅう</sup>か<sup>ししゅう</sup>んだ<sup>ししゅう</sup>デザ<sup>ししゅう</sup>イ<sup>ししゅう</sup>ンとな<sup>ししゅう</sup>っています。



岡崎市章



龍神の井(岡崎公園)

**問題7**

寅<sup>とらどし</sup>歳の寅<sup>とら</sup>の刻<sup>こく</sup>(午前4時頃)に家康公が生まれたとき、両親<sup>こたからき</sup>が子宝<sup>き</sup>祈願<sup>がん</sup>に詣<sup>もう</sup>でた奥<sup>おく</sup>三河<sup>みかわ</sup>の鳳来寺<sup>ほうらいじ</sup>では、安置<sup>あんち</sup>してあった寅歳の守り神<sup>しん</sup>・真達羅大将<sup>だいらたいしやう</sup>の像<sup>ぞう</sup>に異変<sup>いへん</sup>が起こったと伝わっています。像に起こった異変とはなんだったのでしょうか？

- (1) 消えてなくなり、家康公が亡くなったあとに戻<sup>もど</sup>ってきた。
- (2) 一昼夜<sup>いちぢゆうや</sup>、寺の中を動きまわった。
- (3) 夜が明けるまで、うなり声をあげ続けた。
- (4) 浮<sup>う</sup>き上がり、岡崎城まで飛んでいった。

解答… (1)

**解説**

江戸時代になると、この伝承から真達羅大将が寅歳の家康公を守ったとも、家康公自身が真達羅大将の化身だったとも伝えられるようになりました。家康公と鳳来寺の話<sup>はなし</sup>を重要視した三代将軍・家光<sup>しやうくわん</sup>は、慶安元年(1648年)に本堂<sup>ほんどう</sup>(薬師堂)の修復<sup>しゆふく</sup>や境内整備<sup>けいだいせいび</sup>に加え、神となった家康公を祀<sup>まつ</sup>る鳳来山東照宮<sup>とうしやうぐう</sup>の新造<sup>しんぞう</sup>を命じました。事業<sup>じぎやう</sup>の完了<sup>かんりやう</sup>は慶安4年(1651年)の四代将軍・家綱<sup>いえつな</sup>の時代までかかりました。現存する本殿<sup>げんぞん</sup>などは国の重要文化財<sup>ほんでん</sup>に指定<sup>くにかん</sup>されています。



真達羅大将

(鳳来寺薬師堂／新城市)

**問題8**

家康公は、松平初代<sup>しやうだい</sup>・親氏<sup>ちかうじ</sup>から数えて何代目の当主<sup>たんじゆ</sup>として誕生<sup>たんじゆ</sup>したのでしょうか？

- (1) 4代
- (2) 7代
- (3) 9代
- (4) 15代

解答… (3)

**解説**

鴨田町にある徳川将軍家菩提寺の大樹寺<sup>かもだちやう とくがわ ほだいじ だいじゆじ</sup>には、元和3年(1617年)に二代将軍・秀忠<sup>げん な ひでただ</sup>が設けた松平氏八代の廟所<sup>むらやま</sup>があります。墓<sup>はか</sup>の大きさ<sup>おお</sup>と様式<sup>ようしき</sup>は松平一族<sup>い</sup>が生きてきた時代<sup>しやうちやう</sup>を象徴<sup>やすちか</sup>するかのよう<sup>のぶみつ</sup>にまちまちで、初代<sup>はつだい</sup>・親氏<sup>ちかうじ</sup>、二代<sup>にだい</sup>・泰親<sup>たいしん</sup>、三代<sup>さんだい</sup>・信光<sup>のぶみつ</sup>は宝篋印塔<sup>ほうきやういんとう</sup>、四代<sup>しちただい</sup>・親忠<sup>ちかただ</sup>、五代<sup>ごだい</sup>・長親<sup>ながちか</sup>、六代<sup>のぶ</sup>・信忠<sup>のぶみつ</sup>、七代<sup>しちだい</sup>・清康<sup>きよやす</sup>は五輪塔<sup>ごりんとう</sup>、八代<sup>はちだい</sup>・広忠<sup>ひろただ</sup>は無縫塔<sup>むほうとう</sup>です。また、昭和44年(1969年)には広忠<sup>ひろただ</sup>の墓<sup>はか</sup>に隣接<sup>りんせつ</sup>して、市民<sup>しみん</sup>からの募金<sup>ぼきん</sup>により、九代<sup>くわだい</sup>・家康公<sup>けいこう</sup>の墓<sup>はか</sup>が建立<sup>こんりやう</sup>されました。



松平八代の墓(大樹寺／岡崎市鴨田町)

## 問題9

家康公の母・於大が、父・広忠に嫁ぐとき、嫁入り先の繁栄を願って於大の父・水野忠政が持たせたともいわれる「種」から作られたものはなんでしょうか？

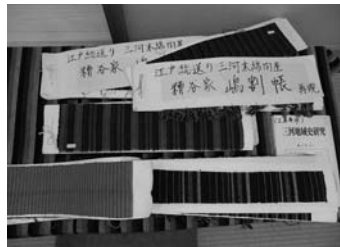
(江戸時代には、岡崎を中心に三河を代表する産業に発展しました。)

- (1) 八丁味噌 (2) 紅花  
(3) 盆栽 (4) 三河木綿

解答… (4)

## 解説

日本における木綿の歴史は延暦18年(799年)に三河国に漂着した天竺人(インド人)を起源としています。綿の栽培や木綿の織物が日本国内で最も早く始まった三河では、16世紀初頭には「三川木綿」と産地名をブランドとした製品も現れ、贈答品として珍重されました。岡崎では江戸時代から木綿産業は隆盛を極め、三河の木綿問屋は江戸の問屋に太いパイプを持っていました。また、岡崎藩士の家庭の内職で織られた木綿は『城内木綿』のブランド名で取り引きされました。



三河木綿 (高木宏子氏蔵/岡崎市竜美西)

## 問題10

現在、家康公の誕生日には、家康公の生まれた地域(中心市街地の康生地区)でお祝のイベントが行われていますが、家康公の誕生日はいつでしょうか？

- (1) 1月31日 (2) 4月17日  
(3) 8月1日 (4) 12月26日

解答… (4)

## 解説

前日の12月25日はクリスマス(キリストの生誕祭)、日本の年末を彩る行事として定着しています。その反面、家康公の誕生を祝す催しは殆どありませんでした。このことを寂しく思った『NPO岡崎都心再生協議会』を中心に、家康公の生誕の場所である康生地区を会場に、家康公の誕生日を祝い、歴史を楽しみ、岡崎を知るイベントとして実施されているのが『家康公生誕の日』イベントです。



家康公生誕の日(岡崎高校合唱部)

**問題11**

家康公には、祖父の清康や父の広忠と同じ幼名がつけられましたが、なんという名前だったでしょうか？

- (1) 犬千代 (2) 吉法師  
(3) 竹千代 (4) 日吉丸

解答… (3)

**解説**

家康公は、幼名を「竹千代」と名付けられました。家康公の祖父の清康や父の広忠の他に、家康公の長男であり悲劇の死にいたった松平のぶやす信康をはじめ、二代将軍・秀忠、三代将軍・家光なども同じ幼名が付けられました。

江戸時代になっても家康公と同じ「竹千代」の名は、徳川将軍家の世子の名として代々と受け継がれてゆきました。



竹千代像(岡崎公園)

**問題12**

天文13年(1544年)、家康公が3才のとき、母・於大は父・広忠に離縁され、実家の刈谷・水野家に戻されましたが、その理由はなんだったでしょうか？

- (1) 夫婦の性格が合わなかったため  
(2) 広忠が別の女性と結婚することになったため  
(3) 於大が伝染病に感染したため  
(4) 於大の実家の水野家が、松平家の敵である織田家の味方になったため

解答… (4)

**解説**

家康公が幼い頃、松平家は駿河の今川家を頼っていました。そんな中、於大の兄・水野信元は、今川家と敵対する尾張の織田家と手を組みました。そのため、於大は戦国の政略のために夫・広忠と離別され、幼いわが子と別れて実家の刈谷へと帰されました。途中、於大を乗せた輿が岡崎から刈谷への境まで来ると、彼女は自らの意志で供の松平家の家臣達を岡崎に帰しました。賢明な於大は、刈谷領内での両家の間の争いを予見し未然に防いだのです。



於大(楞嚴寺/刈谷市)

## 問題13

天文16年(1547年)、6才の家康公は今川家ひとじちに人質に送られる途中、ある人物にだまされ、織田家に送られてしまいますが、この人物とはだれでしょうか？

- (1) 三河・刈谷城主の水野信元みずの のぶもと
- (2) 渥美・田原城主の戸田康光あつみ たはら とだ やすみつ
- (3) 遠江・掛川城主の朝比奈泰能ととうみ かけがわ あさひ な やすよし
- (4) 甲斐の武田信玄かい 武田 信玄

解答… (2)

## 解説

幼い家康公は今川家に人質に送られる途中、潮見坂で田原城主の戸田康光の歓迎を受けましたが、その後ごに捕われて敵対する織田家に送られてしまいます。田原の戸田家は、離縁された於大に代わって家康公の父・広忠に嫁いだ真喜姫の実家でした。幼い家康公は継母の実家に騙されたのです。3才で母と別れ、6才になった幼い竹千代(家康公)に、さらなる不幸な運命が襲いました。これに怒った今川義元は田原城を攻め、田原戸田氏は滅亡します。



田原城址(田原市)

## 問題14

織田家の人質のとき、家康公は重い病びょうき気にかかりましたが、乳母の「お松」の懸命な祈りと看病によって命をとりとめました。このときの「お松」の行動を表わしているのはどれでしょうか？

- (1) 織田家に頼んで、自分が織田家で一ぼたら生ただ働きする代わりに、名高い医師に家康公の治療ちりようをしてもらった
- (2) 船で京の都まで薬を買いに行き、持ち帰って飲ませた
- (3) 髪を切かみって厄あまになり、ひたすら病かいゆ気の快癒いのを祈った
- (4) 神仏に自分が身代りになることを誓ちかって絶食し、家康公が元気に回復すると自害ぜっしよくした

解答… (4)

## 解説

お松は家康公の乳母で、人質時代の幼い家康公にも付添って養育をしました。尾張の織田家に人質に送られてから、家康公はほうそう(天然痘)にかかってしまいます。重体になり、生死の境をさまよう幼い家康公を救うため、お松は自分が家康公の身代りになることを熱田明神に誓い、37日絶食し祈り続けました。そのかいあってか、家康公は一命をとりとめることができました。家康公の快復を見とどけると、お松は明神に感謝して命を断ったのです。



お松の顕彰碑(額田郡幸田町)

**問題15**

天文18年(1549年)、家康公との人質交換のため、織田信長の兄・信広のぶひろが捕らえられた城はどこでしょうか？

- (1) 安祥あんしょう(安城)城あんじょう じょう
- (2) 岡崎城
- (3) 刈谷城
- (4) 清洲城

解答… (1)

**解説**

天文18年(1549年)11月の安祥城攻めは織田信広のぶひろの生け捕りもくてきを目的とした戦いくさでした。

同年3月に岡崎城内において広忠ひろただが暗殺され当主不在となった松平家まつだいらに対し、今川義元いまがわ よしもとは知将ちしょう太原雪齋たいげん せつさい率いる今川軍いまがわ いくんを派遣し岡崎城おかざき じょうを占拠させました。そして、竹千代たけちよ(家康公)奪還だつかんを掲げることで松平家臣団まつだいら かしん だんを今川軍の戦力せんりきに組み入れ、安祥城あんしょう じょうを攻略し、人質交換せいかうを成功させたのです。以後、桶狭間おけはざまの合戦かっせんまでの10年間は

岡崎城に今川家の城代じょうだいが置かれ、三河一國みかわいっこくは今川義元いまがわ よしもとの事実上の領国りょうこくとなりました。



安祥城址(安城市)

**問題16**

天文18年(1549年)、岡崎に戻った家康公は、今度は今川家の人質として駿府すんぶに送られましたが、駿府すんぶで家康公を養育した女性よういくはだれでしょうか？

- (1) 母・於大
- (2) 於大の母・源応尼げんのう に げよういん(華陽院)
- (3) 広忠の後妻・真喜姫まきひめ
- (4) 今川義元いまがわ よしもとの妻・定恵院じょうけいいん

解答… (2)

**解説**

駿府人質時代すんぶ じだいの内、多感たかんな8才から結婚する16才までの家康公を、親代わりとなつて扶育ふいくしたのは母・於大の母の源応尼げんおうにです。家康公の祖母にあたる女性で、刈谷城主みづの ただまさ・水野忠政みづの ちゆさだの妻となり、その後、その美貌のため、松平清康まつだいら せいこうが水野家との講和の条件として後妻ごさいにしたといわれます。源応尼げんおうには竹千代たけちよの駿府すんぶでの寓居あいで近くにある智源院ちげんいんの庵いりに住み、細やかな愛情あいじょうを注ぎました。竹千代たけちよがここで手習いてならをした時に使用された机硯つくえすずりなどが岡崎の法蔵寺ほうざうじ(本宿町)に送られたと伝わっています。



華陽院の墓(華陽院/静岡市)



## 問題17

駿府で家康公の師となって学問や兵法を教えた高僧で、今川義元の軍師でもあった優れた武将とはだれでしょうか？

- (1) 太原雪斎 (2) 竹中半兵衛  
(3) 蓮如 (4) 山本勘助

解答… (1)

## 解説

幼少の今川義元の教育係でもあり、後に今川家の重臣として義元の執政とも軍師ともいわれた太原雪斎は、京都妙心寺35世を務めたほどの高僧で、家康公が雪斎から受けた薫陶は、今で言えば超名門大学の学長による直々の個人指導のようなものでした。雪斎の没年は弘治元年(1555年、60才)ですから、家康公が学べたのは14才までですが、最晩年まで人質の身の家康公の教育に精魂を傾けたのは、家康公の真摯に学ぶ姿勢が嬉しかったからではないでしょうか。



太原雪斎が住持を勤めた臨濟寺(静岡市)

## 問題18

天文20年(1551年)正月、人質時代の家康公の腕白ぶりと豪胆ぶりを伝える逸話で、多くの年賀の客で賑わう今川館の縁側から家康公がしたといわれることはなんでしょうか？

- (1) 堂々と庭に向かって立ち小便をした  
(2) 思い切りジャンプして庭の池に飛び込んだ  
(3) 庭に隠れていたイノシシに壺を投げ命中させた  
(4) 縁側に座っていた客をけり落とした

解答… (1)

## 解説

遺訓に「堪忍は無事長久の基、いかりは敵とおもえ」と記した家康公ですが、幼い10才の頃はそうはできませんでした。今川家の家臣たちから受ける侮蔑の眼差しは人質の身の家康公にとっては耐え難いものだったようです。この日、家康公の耳に入ったのは、敬愛する祖父・清康と人質の身の家康公の比較でした。勇猛果敢で鳴らした清康の孫らしいところを見せようとしたのがこの行為で、「末は大器ならんと人々は驚嘆した」と伝えていますが、家康公にとっては若気の至りだったようです。



駿府城本丸遺跡(静岡市)

## 問題19

駿府での人質時代、家康公は安倍川の河原で、東西に分かれて石合戦をする子供たちを見て、どちらが勝つかを予想して当てたといわれていますが、なんと予想したでしょうか？

- (1) 戦は人数の多いほうが勝つ
- (2) 少人数のほうが団結して戦うので勝つ
- (3) 体の大きい子がいる少人数のほうが勝つ
- (4) 引き分けになる

解答… (2)

## 解説

「多勢に無勢」という言葉の逆をいくのがこの日の家康公の判断でした。油断しがちな多勢に対し、少人数のほうが緊張し心を一つにできると見たからです。そうかと言って常に少人数が勝つはずはありません。兵力に勝る方が有利なのは戦の常識です。まさに石合戦が始まろうとする時に、対峙する両者の空気を読んだのです。この予想を聞いた大人がその鋭い観察眼に大変驚いていますから、この時すでに太原雪斎の薫陶を受けていたと思われます。



安部川(静岡市)

## 問題20

弘治元年(1555年)、元服した家康公が名乗った名前はなんでしょうか？

- (1) 元信
- (2) 元康
- (3) 家康
- (4) 信康

解答… (1)

## 解説

元服とは武家の男子の成人式です。14才となった竹千代(家康公)は今川館でこの式に臨み、理髪は義は今川一門の関口義広が務め、烏帽子親は今川義元がなりました。義元の「元」を賜り、ここに松平家九代当主である松平元信が誕生したのです。また、元服を機に岡崎城主としての立場も認められるはずでしたが、義元は駿府を離れることは認めしてくれませんでした。家康公は今川一門の侍大将として働くことを求められたのです。



元服時の烏帽子

**問題21**

弘治3年(1557年)、家康公が結婚した今川義元の  
 姪はだれでしょうか？

- (1) 朝日姫 (2) お梶の方  
 (3) 瀬名姫(築山殿) (4) 西郷の局

解答… (3)

**解説**

家康公は瀬名姫という女性と結婚します。  
 瀬名姫は今川一門の関口義広の娘で、母は  
 今川義元の妹であり、義元の姪にあたります。岡崎  
 城近くの築山という場所にある御殿に住んだことか  
 ら築山殿と呼ばれるよ  
 うになりました。

家康公と築山殿の間  
 には、信康と亀姫二人  
 の子供が生まれます。  
 名門今川氏の娘として  
 松平家(徳川家)に嫁い  
 だ築山殿は、その後の  
 松平家と織田家との関  
 わりあいの中で、戦国  
 の悲しい運命に翻弄さ  
 れることになります。



築山殿(西来院/浜松市)

**問題22**

家康公は、結婚した後に名前を変えました。新し  
 い名前はなんでしょうか？

- (1) 元信 (2) 元康  
 (3) 家康 (4) 信康

解答… (2)

**解説**

築山殿との結婚の後、家康公は元服で名  
 のった「元信」を「元康」に改名しました。「元  
 康」の「康」は、敬愛する祖父の「清康」の一字を引き  
 継ぎました。松平七代・清康は13才で松平家の家督  
 を継ぎ、大永4年(1524年)に安祥城から岡崎城に本  
 拠を移し、若くして  
 三河統一を成し遂げ  
 ました。清康は強い  
 だけでなく、勇敢で  
 慈悲深く家臣達の信  
 頼が厚かった名君と  
 いわれています。家  
 康公はそんな祖父に  
 あやかりたいと思い、  
 「元康」を名乗ったと  
 いわれています。



松平元康石像(岡崎市羽根町)

**問題23**

永禄元年(1558年)、家康公は今川家の武将として初陣を果たしますが、攻めたのはどこの城でしょうか？

- (1) 尾張・清洲城
- (2) 三河・寺部城
- (3) 遠江・高天神城
- (4) 伊豆・韮山城

解答… (2)

**解説**

初陣とは、武士が初めて戦に出ることを言います。家康公は17才の時、三河の寺部城を攻めたのが初陣になりました。寺部城は現在の豊田市にあり、鈴木氏の城でした。寺部城主の鈴木重辰が今川氏に叛き、織田氏に通じたため、今川義元が家康公に鈴木氏を攻めることを命じました。家康公は故郷の岡崎城に帰り、松平の諸将達を率いて寺部城を攻め、見事に初陣を飾ります。祖父・清康を彷彿とさせる家康公の勇ましい姿に、岡崎の将士達は皆感動し、喜んだと伝わっています。



寺部城址(豊田市)

**問題24**

家康公が初陣のときに着用したと伝えられる具足(鎧兜)のレプリカ(複製品)が岡崎公園内の「三河武士のやかた家康館」に展示してありますが、その具足は何色だったのでしょうか？

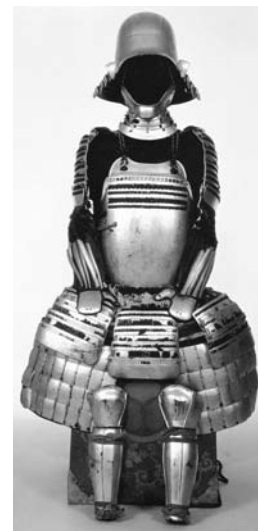
- (1) 赤
- (2) 白
- (3) 黒
- (4) 金

解答… (4)

**解説**

家康公の具足の中でも特に有名な「金陀美具足」の複製品が岡崎公園内にある「三河武士のやかた家康館」に展示してあります(現物は久能山東照宮蔵)。

具足(鎧兜)全体が金で彩られた豪華で美しいこの具足は、桶狭間の戦いの前哨戦である大高城の兵糧入れに成功した際にも着用していたと伝わります。武家にとっての具足は、晴れ舞台を飾る衣装であるのと同時に死に装束でもあったので、美術工芸的な価値の高いものが数多く造られました。



金陀美具足  
(久能山東照宮/静岡市)

## 問題25

永禄2年(1559年)誕生の長男に続き、同3年(1560年)、家康公に女子が誕生。後に奥平信昌の正室(妻)になるこの長女の名前はなんでしょう？

- (1) 篤姫 (2) 亀姫  
(3) 千姫 (4) 督姫

解答… (2)

## 解説

駿府に生まれ岡崎で育ちました。母・築山殿と兄・信康は織田信長の命令で天正7年(1579年)に命を落としましたが、亀姫は天正4年(1576年)に17才で長篠の戦いで戦功のあった新城城主・奥平信昌(その後も家康公のもとで戦功を重ね、美濃加納藩10万石の大名になりました。)に嫁ぎ、66才の寛永2年(1625年)に美濃加納(岐阜県岐阜市)で没しました。夫妻の墓所は信昌開基の加納の増瑞寺で、子孫は豊前中津藩10万石(大分県中津市)として明治を迎えました。



亀姫(大法院/京都市)

## 問題26

永禄3年(1560年)、今川義元は2万5千の大軍を率いて西に向かって出発。先鋒の家康公には最前線の城に兵糧(食料)を運び入れる命令が出されましたが、兵糧入れを成功させたその城とはどこでしょう？

- (1) 尾張・大高城 (2) 尾張・那古野城  
(3) 尾張・鳴海城 (4) 三河・岡崎城

解答… (1)

## 解説

今川義元の西上にともない、家康公は先鋒をつとめました。今川方の最前衛に位置する尾張の大高城は、近くの鷲津・丸根岩に入った敵の織田軍と対峙し、城に籠る兵士の兵糧(食糧)が乏しくなっていました。そこで、義元は家康公に大高城に兵糧を入れることを命じました。家康公は近くの寺部城下に放火し、砦の織田軍の注意を引いて、その隙に大高城に悠々と入り、兵糧を運び込むことを成功させたといわれますが、この直後、今川義元は桶狭間で討死してしまいます。



大高城址(名古屋市)

## 問題27

桶狭間おけはざまの合戦の際、家康公さいこんは、母・於大おだの再婚先  
の尾張あぐい・阿久比あかつの館たずを訪ね母との再会を果たした  
といわれますが、於大が再婚した武将はだれで  
しょうか？

- (1) 久松俊勝ひさまつとしかつ (2) 前田利家まえだとしいえ  
(3) 松平康元まつだいらやすもと (4) 山内一豊やまうちかずとよ

解答… (1)

## 解説

母・於大が再婚した久松俊勝おだけは織田家の  
武将の一人。於大が住む阿久比は尾張の  
真まっ只中ただなか。織田信長の勢力圏で、家康公は3才で生  
き別れた母と16年ぶりの再会を果たしたのです。これ  
は大高城への兵糧入れと変わらぬ危険な行為です。  
織田の人質として熱田に暮らした時、また今川の人  
質として駿府に移ってから、於大は幼い家康公の  
身を案じ、音信を絶つことなく、衣類や菓子を送り  
続けてくれました。そんな母を慕う気持ちが戦場  
にある家康公を突き動か  
したものと思われま



久松氏の家紋(星梅鉢)



坂部(阿久比)城址(知多郡阿久比町)

## 問題28

桶狭間で今川義元が討たれ、岡崎・大樹寺を目指  
した家康公は、雨で増水した矢作川が渡れず、対  
岸の八剣神社に祈ったところ、3頭の動物が現れ、  
家康公を背に乗せて無事に川を渡らせたという伝  
説が残ります。この伝説に登場する神の使いの動  
物は何でしょう？

- (1) 牛うま (2) 馬うま  
(3) 鹿しか (4) 竜りゅう

解答… (3)

## 解説

大高城で今川義元討死の報を受けた家康  
公は、岡崎を目指しました。しかし、矢作  
川が雨による増水で渡れません。そこで対岸の八剣  
神社に祈ったところ、神の使いの3頭の鹿が松の木  
陰から現れ、家康公を背中に乗せて川の浅瀬を渡り、  
そのまま大樹寺へと導いてくれたと伝わります(「三  
鹿の渡し」伝説)。鹿が現れた松は「鹿が松」と呼ばれ  
今も三代目の松が立ち  
ます。この鹿が伊賀八  
幡宮の神の使いである  
という言い伝えもあり、  
後に本多忠勝が鹿角の  
兜を作らせたことでも  
有名です。



三鹿の渡し「鹿が松」(岡崎市北野町)

## 問題29

松平家の菩提寺の大樹寺に着いた家康公は先祖の墓の前で自害しようとしませんが、住職の登壇上人から、生きて平和な世を作るよう諭され、以後、そのことばを旗印としました。そのことばとはなんでしょうか？

- (1) 厭離穢土 欣求浄土  
(2) 天下泰平  
(3) 風林火山  
(4) 南無阿弥陀仏

解答… (1)

## 解説

岡崎の地に帰り、ひとまず松平家の菩提寺である大樹寺に入った家康公ですが、織田勢に寺を囲まれ、先祖の墓前で自害を決意しました。しかし、住職の登壇上人が「厭離穢土 欣求浄土」の言葉を聞かせて、家康公に生きる意味を諭しました。これは、穢れた乱世(穢土)を厭い、平和な世(浄土)を願い求めるといふ仏の教えです。以来、家康公はこれを戦場の旗印としました。理想とする社会のありかたを旗印としたのは家康公だけです。



大樹寺本堂(岡崎市鴨田町)

## 問題30

大樹寺に逃げ込んだ家康公は織田の兵に囲まれましたが、70人力といわれる祖洞和尚らの活躍で敵を追い払うことができました。このとき祖洞和尚が武器にして使ったものはなんでしょうか？

- (1) 石灯笼  
(2) 鉄のこん棒  
(3) 門のかんぬき  
(4) 門のはしご

解答… (3)

## 解説

自らの使命を知り、切腹を思いとどまった家康公を守るため、大樹寺に押し寄せた織田勢を相手に、特に目覚ましい活躍で追い返したのが70人力と言われた祖洞和尚です。祖洞和尚は、身長は2メートル、体重は180キロと伝えられ、大相撲の外国人力士なみの巨漢でした。振り回したかんぬきは総門のもので、長さは159センチ、10.3センチ角と、こちらは普通のサイズです。この「かんぬき」は「立志開運 貫木神」として、小さな神殿に納められました。



祖洞和尚像(大樹寺/岡崎市鴨田町)

**問題31**

永禄5年(1562年)、家康公は織田信長の居城に行き軍事同盟を結びますが、これをなんというでしょうか？

- (1) 岡崎同盟
- (2) 清洲同盟
- (3) 三河同盟
- (4) 尾張同盟

解答… (2)

**解説**

家康公の伯父にあたる、刈谷城主・水野信元の仲立ちによって実現した同盟。これにより、信長は西に、家康公は東に勢力を拡大することができるようになりました。「改正三河後風土記」には、信長が互いに天下を目指すことを約束し、どちらかが天下に号令をかけることになったときには、互いが家臣になろうと話したと記されています。会談の場所となった清洲城は、現在天守閣が復元されていますが、当時は現在の場所より西側、五條川の西に城郭がありました。



清洲城遺跡(清洲市)

**問題32**

永禄6年(1563年)、2度目の改名をして「家康」を名乗りますが、「家」という文字はだれの名前からとったといわれているのでしょうか？

- (1) 公家、歌人の藤原定家から
- (2) 源氏の頭領・源義家から
- (3) 松平家三代・信光の子、守家から
- (4) 松平の家を康んじたいとの思いから

解答… (2)

**解説**

源八幡太郎義家は、武家の神様として多くの武士たちの崇敬を集めていました。若き松平元康も同じように、源氏の頭領としての義家を崇敬していたのでしょうか。「改正三河後風土記」には「家康命名」の由来が明確に記されています。ちなみに、甲斐源氏の武田氏も義家を崇敬しており、大切なことを決するとき用いたと伝えられる家宝「御旗楯無」(旗と鎧)の御旗は、義家から授かったものとされています。元康から家康への改名は3年後の徳川復姓へとつながってゆきます。



源八幡太郎義家像



**問題33**

「家康」を名乗るとき、今川義元からもらった一字を捨てて、今川氏からの完全な決別を示しましたが、捨てた文字はどれでしょうか？

- (1) 今
- (2) 川
- (3) 義
- (4) 元

解答… (4)

**解説**

清州同盟以後、東に勢力を伸ばそうと考えた家康公にとって、当面の最大の敵は今川氏となりました。桶狭間の合戦で戦死した今川義元は、人質とはいえ、武将としての教育を施してくれた恩人でもありましたが、これまでの「元康」の「元」(今川義元の元)を八幡太郎義家の「家」の字に変えることによって、

今川氏からの決別の意思を表したのです。これ以降6年間にわたる激しい戦いの末、永禄12年(1569年)、足利一族の名門である今川氏もついに滅亡します。



今川義元の嫡子・今川氏真像

**問題34**

永禄6年から7年(1563~1564年)にかけて起こった三河一向一揆で、譜代の家臣が分裂して一向に加わったことは家康公を深く悩ませましたが、一向一揆とはなんのことでしょうか？

- (1) 浄土真宗本願寺派ともいわれる一向宗の信者たちによる反乱
- (2) 一向という名の僧侶が始めた新しい宗教の信者たちによる反乱
- (3) 三河で家康公に敵対する今川方の一向氏という武将による反乱
- (4) 一向の地を本拠にした松平一族の反乱

解答… (1)

**解説**

戦国の時代、各地で政治的・経済的の力を持ち、一大勢力となっていた本願寺は、三河地方でも佐々木上宮寺、野寺本證寺、針崎勝曼寺の3ヶ寺を中心に強大な勢力を持っていました。一向宗の「一向」というのは「一向に(ひたむきに)阿弥陀仏を信ずる」という意味です。本願寺第8世の蓮如によって一向専修念仏が提唱され、武士や民衆に幅広く支持されました。本願寺派の寺院は諸役免除・不入権を持ち、勢力拡大をめざす家康公と対立する立場をとったのです。



上宮寺(岡崎市上佐々木町)

## 問題35

永禄7年(1564年)、三河一向一揆の兵に追われた家康公は、山中八幡宮にある洞窟に身を隠しましたが、一揆軍が洞窟の前までやってきて洞窟を見つけました。このとき、敵の目の前に洞窟から飛び立って、中に人はいないと思わせて家康公を救ったと伝わる鳥はなんでしょうか？

- (1) こうもり (2) たか  
(3) はと (4) ふくろう

解答… (3)

## 解説

山中八幡宮に伝えられているお話です。この洞窟を「鳩ヶ窟」とも呼んでいます。大きく火の手を広げた三河一向一揆でしたが、およそ半年で終息しました。その間、上和田の砦や小豆坂、馬頭原(美合町)などで激戦が繰り返されました。家康公自身も槍を取って戦ったと伝えられています。この鳩ヶ窟伝説は、そのような一揆の激しさを物語るものとして言い伝えられてきたのでしょうか。家康公は最後は一揆方の参加者や張本人たちも許し、この難局を乗り切ったのです。



鳩ヶ窟(山中八幡宮／岡崎市舞木町)

## 問題36

一向一揆を鎮め、三河を統一した家康公は、永禄8年(1565年)、三河の国を治めるために、後に“家康公のたくみな人材登用ぶり”がたたえられるものを設置しました。あるものとはなんでしょうか？

- (1) 伊賀・甲賀お庭番 (2) 三河三奉行  
(3) 目安箱 (4) 六波羅探題

解答… (2)

## 解説

家康公は人材登用の名人でもありました。三河統一後は「三備の制」を定め、民政面・軍政面にわたる確かな人材の活用が心かげたのです。軍政面では西三河の武士団の旗頭に石川数正を、東三河の旗頭には酒井忠次を任用し、一族の松平氏でさえ従うようにしました。民政面では三河三奉行を置き、税務や訴訟などに当たらせました。「仏高力、鬼作左、どちへんなし(どちらにつかない公平な)の天野三兵」と呼ばれたように、性格三様の武将を登用し、公平な政治を実行させたのです。

鬼作左と称された本多重次生誕地碑  
(犬頭神社／岡崎市宮地町)

**問題37**

永禄9年(1566年)、家康公は姓を松平から徳川に  
戻しました。この征夷大將軍となる資格のある徳  
川氏はどの一族でしょうか。

- (1) 源氏 (2) 平氏  
(3) 足利氏 (4) 菅原氏

解答… (1)

**解説**

徳川氏のルーツについては様々な説があ  
りますが、もともと新田源氏の一族で、世  
良田姓を名乗っていました。群馬県太田市の世良田  
を領地としていたのですが、世良田義季の時に徳川  
(得川)領を采地としたことから徳川姓を名乗るよう  
になります。その後裔が松平初代・親氏であり、時  
宗の僧となって松平郷に入ったと伝えられています。  
世良田氏の嫡子は多くが「二郎三郎」もしくは「三郎」  
を名乗っている記録があり、親氏も、清康  
も、家康公自身も元服の時に名乗っていました。



世良田東照宮(太田市)

**問題38**

徳川の姓に復した(戻した)ことに合わせ、家康公  
が朝廷から任じられた官職はなんのでしょうか？

- (1) 征夷大將軍 (2) 少納言  
(3) 三河守 (4) 上総介

解答… (3)

**解説**

大名というのは一つの国を治める武士団  
の頭領でした。城を持っていても、治める  
領地の範囲が狭ければ、「国人」などと呼ばれ、大名  
ではなかったこととなります。松平氏も、七代・清  
康の時代には、東西三河を治める実質的な大名と  
なりましたが、朝廷から認められた官職を持った  
大名ではなく、家臣に殺されると領国の支配  
権も瓦解してしまいました。家康公は朝廷から「三河守」を任じられ  
ることにより、戦国大名としてのスタートを切ったこととなります。



最初の「三河守」藤原俊成像(蒲郡市)

**問題39**

永禄10年(1567年)、家康公の長男・信康は徳姫と結婚しましたが、徳姫はだれの娘でしょうか？

- (1) 今川義元 (2) 織田信長  
 (3) 武田信玄 (4) 水野信元

解答… (2)

**解説**

家康公は織田氏との同盟関係を強化することが、東に向けての勢力を拡大するために必要不可欠な条件と考えていました。織田信長も同様の考えでしたので、早いうちから信康と徳姫の結婚が約束されます。このような「政略結婚」は戦国期においては当たり前のように行われたことでした。信康も徳姫も同じ年で、5才の時に婚約、9才で結婚という若さでした。後に二人の間には二人の女子が誕生しますが、世継ぎとなる男子は生まれませんでした。



織田信長像(三宝寺/天童市)

**問題40**

元亀元年(1570年)、三河・遠江2国の領主となった家康公は、三河・岡崎城から遠江(静岡県西部)に本拠地を移しましたが、それはどこでしょうか？

- (1) 吉田城 (2) 掛川城  
 (3) 駿府城 (4) 浜松城

解答… (4)

**解説**

家康公が初めて遠江へ進出したのは、永禄11年(1568年)12月のことです。甲斐の武田信玄と約束を交わし、信玄は駿府城下に火をかけて今川氏真を追い出し、家康公は井伊谷に軍を進めました。翌年には当時「曳馬」と呼ばれた浜松の城に入り、掛川城に逃げ込んだ氏真を攻め滅ぼします。しかし、武田信玄は遠江進出の機を伺っており、元亀元年(1570年)、家康公は武田氏の脅威に備えるため、居城を曳馬に移し、地名を浜松と改めたのです。



浜松城(浜松市)

**問題41**

元亀元年(1570年)、家康公は遠江に移るにあたり、だれを岡崎城主にしたでしょうか？

- (1) 長男の信康 (2) 石川数正  
 (3) 本多重次 (4) 酒井忠次

解答… (1)

**解説**

浜松城に居城を移した家康公でしたが、岡崎城も北から侵入しようとする武田勢に対して重要な拠点でした。家康公は12才で元服をした嫡男・信康を岡崎城主として置き、平岩親吉や榊原清政らの重臣をその傅役として補任させました。翌年の元亀2年(1571年)には武田氏による三河への侵入が始まり、岩津や百々(岡崎市北部)で戦いが繰り返されましたが、信康の岡崎城を守ろうと家臣たちも奮戦し、これを退けています。



岡崎信康像(勝連寺/岡崎市矢作町)

**問題42**

元亀元年(1570年)、家康公が織田信長とともに姉川で戦った相手は、朝倉義景とだれの連合軍だったでしょうか？

- (1) 浅井長政 (2) 上杉謙信  
 (3) 武田信玄 (4) 松永久秀

解答… (1)

**解説**

織田信長の妹・お市の方は、近江の浅井長政に嫁いでいました。これは両家の関係を良好にするための結婚でしたが、長政は古くから付き合いのある朝倉家との関係を重視し、信長と敵対しました。信長の怒りは大きく、姉川の戦いでは自ら浅井軍と戦いました。ところが、浅井軍の勇猛な武將たちに織田方の陣は次々と破られ、徳川軍の側面からの救援によって何とか勝利を得ることができました。この3年後には浅井・朝倉氏は信長によって滅ぼされてしまいます。



浅井長政像  
 (高山寺持明院/和歌山県伊都郡高野町)

**問題43**

栄養価が高くて日持ちがよく、携帯にも便利なため、家康公や三河武士たちが兵糧として携帯したといわれる岡崎の特産品とはなんのでしょうか？

- (1) 淡雪とうふ
- (2) いがまんじゅう
- (3) かりんとう
- (4) 八丁味噌

解答… (4)

**解説**

早川家と太田家の「家伝」によれば、八丁味噌の製造は室町初期とも伝えられています。矢作川の舟運を利用して、原料となる大豆や塩が入手しやすく、また伏流水を豊富に利用できることで味噌作りが盛んになったのです。八丁村は岡崎城からも近く、兵站地として職人たちの町でした。八丁味噌も兵糧として供給されたのでしょう。「改正三河後風土記」には、一言坂の合戦で、家康公が浜松城に逃げ戻る際、馬上で脱糞したのを「焼き味噌だ」と弁解した様子が描かれています。



八丁味噌の樽(岡崎市八帖町)

**問題44**

元龜3年(1572年)、領内を通過しようとする武田信玄を追い、三方ヶ原で戦いを挑み大敗した家康公は、本城に逃げ帰った後、「しかみ像」と呼ばれる肖像画を描かせていますが、なんのために描かせたのでしょうか？

- (1) 戦国最強の武田信玄と戦った記念にするため
- (2) 自分の短慮を戒めるため
- (3) 自分の苦労を同盟者の信長に伝えるため
- (4) この絵を燃やすことでいやな思い出を消したかったため

解答… (2)

**解説**

正式には「三方ヶ原戦役画像」といいます。武田信玄の大軍と戦うことについては、家臣の中にも反対を唱える者が多くいました。しかし若い家康公は、「武田の軍勢がいかに強くとも、我が城下を蹂躪するのを見過ごすは武門の恥」と、家臣たちの諫言を聞こうとはしません。その結果、三方ヶ原で信玄に大敗、多くの有能な家臣を失ってしまったのです。浜松城に戻った家康公は、その時の憔悴した様子を絵師に描かせ、これ以後の自分へ戒めとして常に戦場に持参したと伝えられています。



しかみ像石像(岡崎公園)

**問題45**

三方ヶ原の戦いで戦死した数十名の家臣たちの墓をたてて供養した岡崎の寺で、幼い頃の家康公が愛用した文具なども所有する本宿にある寺はどれでしょうか？

- (1) 広忠寺
- (2) 誓願寺
- (3) 大樹寺
- (4) 法蔵寺

解答… (4)

**解説**

この寺の歴史は古く、大宝元年(701年)、文武天皇の勅願により行基によって開かれたと伝えられます。当初は寺号を「出生寺」といいましたが、松平親氏の信仰が厚く、この時代に多くの堂宇が再建され、寺号も法蔵寺と改められました。寺格も高く、学問所としての「檀林」として知られています。寺内には様々な伝承による文化財がありますが、特に家康公が幼少のころ使用したという机や硯などの文具や、三方ヶ原戦役で亡くなった武士たちの供養塔群、松平一族の墓などがあります。



三方ヶ原戦没者供養塔群(法蔵寺／岡崎市本宿町)

**問題46**

天正3年(1575年)、家康公は岡崎城から長篠城へ出陣の途中、ある寺で戦勝祈願をしましたが、その帰り道、地蔵菩薩に呼び止められました。びっくりして振り返ると、ちょうど大杉の陰から刺客が矢を射ようとしていたところで、あやうく命拾いをしたという「家康公見返りの大杉」伝説が残るこの岡崎の寺はどこでしょうか？

- (1) 真福寺
- (2) 随念寺
- (3) 天恩寺
- (4) 鳳来寺

解答… (3)

**解説**

室町三代将軍・足利義満による創建とされ、寺号の扁額などは義満直筆のものと伝えられています。足利将軍家、また家康公の信仰も厚く、慶長7年(1602年)にはおよそ80石の寺領を安堵されました。山門と仏殿は国の重要文化財に指定されています。家康公を大杉の場所で呼び止め、振り返らせたと伝わる地蔵菩薩は当寺の本尊でもあり、先頃、頭部内部の調査が行われました。中からは経筒や願文、墨書の経文など貴重なものが発見され、地蔵菩薩座像は市の文化財に指定されました。



天恩寺(岡崎市片寄町)

## 問題47

天正3年(1575年)、織田・徳川の連合軍が、長篠の合戦で、ある武器の三段撃ちの新戦法を使ったといわれますが、ある武器とはなんでしょうか？

- (1) 石つぶて (2) 大砲  
(3) 火縄銃 (4) 火矢

解答… (3)

## 解説

長篠の合戦は、正しくは「長篠・設楽原の合戦」と呼ばれています。織田・徳川の連合軍が、設楽が原に全長約2キロにわたる「馬防柵」を設け、三千挺の火縄銃を三段に分けて連射し、武田軍を圧倒したことで有名です。しかしこの説には数々の異論があります。その根拠となっているのは、史料として信憑性の高い「信長公記」に、「一千挺」(後世の付記とみられる「三」という数字が横に小さく書かれています)と記されていることです。



長篠古戦場祭り(新城市)

## 問題48

長篠の合戦の相手の大将はだれでしょうか？

- (1) 武田信玄 (2) 上杉謙信  
(3) 北条氏政 (4) 武田勝頼

解答… (4)

## 解説

信玄亡き後、跡を継いだ勝頼は血気盛んな若者で、さかんに遠江や三河に進出してきました。特に、三河については、拠点となる長篠城を家康公によって奪還されてから、1万5千の大軍をもって攻撃しました。しかし、織田信長の援軍と大量の鉄砲によって壊滅に近い敗北を喫し、以後家臣たちの信頼を失うこととなります。



武田勝頼像(高野山持明院/和歌山県伊都郡高野町)



**問題49**

天正7年(1579年)、家康公は信長から、妻と長男の処断を命じられました。二人が敵と内通していると疑われたためだといわれますが、だれと内通していると疑われたのでしょうか？

- (1) 明智光秀
- (2) 足利義昭
- (3) 武田勝頼
- (4) 毛利輝元

解答… (3)

**解説**

家康公の長男・信康は、岡崎城の城主として初陣を果たし、武田方の武節城を陥落させました。その武勇は大変優れていましたが、一方で粗暴な振る舞いもあったようです。信康の妻・徳姫は、父の信長に向けて信康やその母である築山殿への不満を12ヶ条にわたって訴えました。その中に二人が武田勝頼に内通しているとの一文があったのです。酒井忠次、大久保忠世の二人が弁明の使者として派遣されましたが、信長は家康公に対し、信康と築山殿の処分を要求してきました。



信康初陣の武節城址(豊田市稲武)

**問題50**

徳川家のため、やむを得ず切腹したといわれる長男・信康の首塚がある岡崎の寺社はどこでしょうか？

- (1) 伊賀八幡宮
- (2) 大樹寺
- (3) 若宮八幡宮
- (4) 八柱神社

解答… (3)

**解説**

信長から長男・信康と正室・築山殿の処分を要求された家康公は、岡崎城に入り信康を大浜に退去させました。その後、家臣たちから信康との書簡のやり取りを止める起請文を出させるなど、信康処断の意思を示しました。その後も遠江堀江城、二俣城と身柄を移しましたが、最後は信康自身が身の潔白を言い残しながら切腹して果てたのです。その首は直ちに岐阜の信長のもとに届けられましたが、岡崎城代であった石川数正によって、若宮八幡宮に葬られました。



信康首塚(若宮八幡宮/岡崎市朝日町)

## 問題51

自分が犠牲になることで息子の信康が許されることを祈り、命を捨てたといわれる家康公の妻(正室)の首塚がある岡崎の寺社はどこでしょうか？

- (1) 伊賀八幡宮 (2) 大樹寺  
(3) 若宮八幡宮 (4) 八柱神社

解答… (4)

## 解説

信康と同様に、武田氏との内通を疑われた家康公の正室・築山殿は、家康公の命令で斬り殺されたというのが俗説になっています。ただ、そのような史料は無く、風聞のみで悪妻とされているのは残念です。「曳馬拾遺」という史料によれば、家康公の家臣が残した記録として、築山殿が浜松城に向かう際、すでに「死装束」であったとあります。自らの命を絶つことで、信康の助命嘆願をしたのではないかと思われまふ。その首は信長のもとに届けられた後、石川数正によって八柱神社に葬られました。



築山御前首塚(八柱神社／岡崎市欠町)

## 問題52

天正10年(1582年)、武田氏を滅亡させ、家康公は信長より一国を与えられ、三河・遠江と合わせて3ヶ国の大名となりました。与えられた新しい領地はどこでしょうか？

- (1) 伊豆 (2) 甲斐  
(3) 駿河 (4) 美濃

解答… (3)

## 解説

武田氏にとって遠江最後の拠点ともいえる高天神城が陥落すると、勝頼の求心力はますます弱まり、離反する家臣も出始めました。家康公は駿河に進出し、さらに身延の穴山梅雪を味方に引き入れ、甲斐に軍を進めました。一方、織田信長は長男の信忠を信濃に侵攻させ、高遠城から諏訪へ、そしてついに甲斐を攻略させました。勝頼は逃げ場を失い、天目山で妻子もろとも自害、400年続いた武田氏も滅亡しました。その後、家康公は信長より駿河一国を与えられました。



高天神城址(掛川市)

**問題53**

天正10年(1582年)、京都で本能寺の変<sup>ほんのうじ へん</sup>が<sup>いっこう</sup>おこり、  
信長<sup>あけち みつひで</sup>が<sup>かえ</sup>明智光秀<sup>りょこうちゅう</sup>に殺されたとき、信長<sup>まね かみ</sup>に招かれ上  
方<sup>がた かんさい</sup>(関西)を旅行中<sup>りょこうちゅう</sup>だった家康公はどこにいたで  
しょうか？

- (1) 京都 (2) 神戸
- (3) 高野山 (4) 堺

解答… (4)

**解説**

本能寺の変<sup>お</sup>が起きたのは、天正10年(1582年)6月2日早朝<sup>そうちよう</sup>でした。信長<sup>はい</sup>がわずかな  
供<sup>とも ひ つ</sup>を引き連れ、本能寺<sup>ほんのうじ</sup>に入ったのは5月29日(この  
としはグレゴリオ<sup>れき さいよう</sup>暦が採用された年で、5月29日<sup>よく</sup>の翌  
日<sup>じつ</sup>は6月1日<sup>ぜい</sup>に是正<sup>せい</sup>されています)。翌6月1日<sup>よ</sup>には40名ほどの公家<sup>くげ</sup>を呼び茶会<sup>ちあかい</sup>を催<sup>もよお</sup>しました。家康公<sup>いっこう</sup>  
一行<sup>いちぎょう</sup>は、信長<sup>じゆきやう</sup>入京<sup>にゅうきやう</sup>の日<sup>ひ</sup>に京<sup>た</sup>を<sup>ふし</sup>発<sup>み</sup>ち、伏見<sup>ふし</sup>の港<sup>みなと</sup>から舟<sup>ふね</sup>  
で堺<sup>さかい</sup>に向<sup>む</sup>かっ  
たと考え<sup>かんが</sup>られ  
ます。本能寺<sup>ほんのうじ</sup>  
の変<sup>いっぼう</sup>の一報<sup>いっほう</sup>を  
受<sup>う</sup>けた時<sup>とき</sup>は堺<sup>さかい</sup>  
で過<sup>す</sup>ごしてい  
ました。



家康一行宿泊地「妙国寺」(堺市)

**問題54**

本能寺の変<sup>ほんのうじ</sup>を知<sup>し</sup>った家康公<sup>いっこう</sup>の一行<sup>いっこう</sup>が、急<sup>いそ</sup>ぎ岡崎<sup>いっこう</sup>に  
帰<sup>かえ</sup>ったコースはどれで  
しょうか？

- (1) 伊賀<sup>い が</sup>の山中<sup>い が</sup>を越<sup>い</sup>え、伊勢<sup>い せ</sup>からは船<sup>い せ</sup>を使<sup>い</sup>った
- (2) 大坂<sup>おおさか</sup>から船<sup>お お さ か</sup>で三河<sup>ふね</sup>に帰<sup>い</sup>った
- (3) 紀伊半島<sup>きい</sup>を横断<sup>きい</sup>して名古屋<sup>お う だん</sup>屋<sup>き い</sup>に出<sup>き い</sup>た
- (4) 東海道<sup>とうかいどう</sup>を陸路<sup>りくろ</sup>で戻<sup>もど</sup>った

解答… (1)

**解説**

「伊賀越え」と呼<sup>よ</sup>ばれている家康公<sup>いっこう</sup>一行<sup>いっこう</sup>の  
危<sup>き</sup>機<sup>き</sup>です。信長<sup>いっせん</sup>の死<sup>し</sup>を知<sup>し</sup>った家康公<sup>いっこう</sup>は、明  
智勢<sup>めい ち</sup>と一戦<sup>いっせん</sup>を交<sup>ま</sup>じ知恩院<sup>ち おん いん</sup>で後<sup>あと</sup>を追<sup>お</sup>い死<sup>し</sup>のうと考<sup>お</sup>えた  
ようですが、本多忠勝<sup>ほん だ ちゅう かつ</sup>らの説<sup>せつ</sup>得<sup>とく</sup>によっ<sup>お</sup>て思<sup>おも</sup>いとどま  
りました。その後<sup>ちゆう</sup>は最<sup>さい</sup>短<sup>たん</sup>のコースを通<sup>とお</sup>って、ま<sup>と</sup>ず岡  
崎<sup>いっこう</sup>に帰<sup>かえ</sup>り、その後<sup>ついで</sup>に追討<sup>お い</sup>の兵<sup>へい</sup>を起<sup>おこ</sup>そうと考<sup>お</sup>えたの  
です。伊賀越え<sup>い が 越 え</sup>は野盗<sup>や どう</sup>も多<sup>お</sup>く、多<sup>ちゆう</sup>くの危<sup>ちゆう</sup>機<sup>めん</sup>に直<sup>ちゆう</sup>面<sup>めん</sup>  
し  
ましたが、茶  
屋<sup>ちや</sup>四<sup>し</sup>郎<sup>ろう</sup>二<sup>に</sup>郎<sup>ろう</sup>の  
機<sup>き</sup>転<sup>てん</sup>や、服<sup>はつ</sup>部<sup>とり</sup>  
半<sup>はん</sup>蔵<sup>そう</sup>の一<sup>いち</sup>味<sup>み</sup>の  
助<sup>たす</sup>けもあっ<sup>たす</sup>て、  
無<sup>ぶ</sup>事<sup>じ</sup>、伊<sup>い</sup>勢<sup>せ</sup>の  
白<sup>しら</sup>浜<sup>はま</sup>までたど  
り着<sup>つ</sup>きました。



伊賀越え「御斎峠」(伊賀市)

**問題55**

本能寺の変のあと、家康公は信長の領地(もとは武田の領地)だった2ヶ国を自分の領地にして5ヶ国の大名となりますが、その2ヶ国とは、信濃(長野県)とどこでしょうか？

- (1) 伊勢(三重県)
- (2) 甲斐(山梨県)
- (3) 河内(大阪府)
- (4) 能登(石川県)

解答… (2)

**解説**

羽柴秀吉によって明智光秀が討たれたとの報告を受け、家康公は軍勢を信濃と甲斐に向けました。信長の領地になったばかりの両国では、旧武田の家臣を中心とした一揆が頻発し、滝川、川尻といった織田方の将はことごとく敗れて追放されたり殺されたりしました。家康公はかねてより旧武田の家臣たちを救い、自分の家臣団に引き入れていた経緯もあったので、甲斐国を巡る北条氏との戦いも収まり、一挙に5ヶ国を領有する大大名になったのです。



甲府城址(甲府市)

**問題56**

天正12年(1584年)、信長の二男・信雄と家康公の連合軍が、信長の後継者を狙う秀吉と戦った戦はどれでしょうか？

- (1) 小牧・長久手の戦い
- (2) 賤ヶ岳の戦い
- (3) 関ヶ原の戦い
- (4) 長篠の戦い

解答… (1)

**解説**

宿敵の柴田勝家を滅ぼし、天下人の階段を登りはじめた秀吉にとって、5ヶ国の大名である家康公の存在は脅威でした。信長の正統な後継者を主張する二男の信雄は、家康公と連合し秀吉に対抗しました。家康公はいち早く小牧山に陣を構え、犬山城から楽田に押し出してくる秀吉に対峙したのです。にらみ合いが続くと、事態を打開しようと焦った池田恒興や森長可らの進言で、岡崎を攻めようとしたのですが、家康公はそれを長久手で打ち破り勝利。この後、秀吉と和睦しました。



色金山徳川本陣跡(愛知郡長久手町)

## 問題57

天正13年(1585年)、家康公の家老で岡崎城代の重臣・石川数正が、突然、秀吉のもとに出て行きました。秀吉に徳川の軍法を知られてしまうため、家康公はこれまでの軍法を大きく変えましたが、どの戦国武将の軍法をみならって取り入れたのでしょうか？

- (1) 今川義元 (2) 上杉謙信  
(3) 織田信長 (4) 武田信玄

解答… (4)

## 解説

家康公はみならうべき武将、武田信玄の軍法を取り入れました。石川数正の岡崎出奔については大変謎が多いのですが、金や地位に目が眩んでの出奔ではないと思われます。当時の豊臣と徳川の間には非常に危険な事態に陥っていました。徳川方は長久手で勝利したことから、「秀吉何するものぞ」という気分が家臣団にも充満していました。その危険を考えた数正が秀吉のもとに赴いたのでしょう。以後、朝日姫との結婚や大政所の岡崎下向など、秀吉が折れているからです。



石川数正の築城による松本城(松本市)

## 問題58

天正14年(1586年)、家康公を臣下にした秀吉は、自分の妹を家康公の妻にしました。家康公のふたりめの正室(妻)となった秀吉の妹の名前はなんでしょう？

- (1) 朝日 (2) 茶々  
(3) ねね (4) まつ

解答… (1)

## 解説

家康公を自分のもとに跪かせたい秀吉は、自分の妹である朝日姫を家康公に嫁がせました。朝日姫はすでに佐治氏のもとに嫁いでおり、離縁させられての結婚でした。年齢も40才を過ぎ、家康公も戸惑ったようです。浜松に嫁いだ朝日姫は日々泣いて暮らしていたと言われますが、家康公は母の於大の方を浜松に呼び寄せ、話し相手にさせていたのではないかと思います。於大はこの時期のみ家康公のもとにいた記録が残っているからです。家康公の優しい一面が垣間見えるようです。



朝日姫(南明院/京都市)

**問題59**

妹を嫁に出しても大坂城に来て臣下の礼をとらない家康公に対し、秀吉は妹の見舞いと称して母・大政所を人質同然に家康公のもとに送りました。家康公夫婦が大政所と対面した城はどこだったでしょうか？

- (1) 大坂城
- (2) 岡崎城
- (3) 岐阜城
- (4) 浜松城

解答… (2)

**解説**

秀吉の母・大政所は、この時にはずいぶん高齢になっていたと考えられます。岡崎城への道中は、後に岡崎城主となる田中吉政が警護の任に当たったという記録があります。岡崎城に到着した大政所は娘と感動的な対面を果たしますが、この様子を見て、家康公もついに大坂への出仕を決めたようです。ただ、家康公が大坂に行っている間は、岡崎城代の本多重次(鬼の作左)によって厳しく監視され、そのことを恨みに思ったようです。逆にこのときの井伊直政の厚いもてなしは、大政所の心をほぐしました。



井伊直政像(彦根城博物館/彦根市)

**問題60**

家康公は大政所と対面したあと大坂城に行き、秀吉に臣下の礼をとりました。そのとき家康公は諸大名の前で、「私が来たからには、殿下(秀吉)には二度と戦をさせません。私が代わって日本を平定します。」という意味で、秀吉が身につけていた“あるもの”を所望した(欲しいと言った)というエピソードがありますが、なにを所望したのでしょうか？

- (1) 刀
- (2) 兜
- (3) 陣羽織
- (4) 鉢巻

解答… (3)

**解説**

家康公が大坂へ到着すると、その夜、秀吉がお忍びで訪れました。明日、諸大名の前で臣下の礼を取るよう、家康公に懇願したと伝えられています。当日、家康公はその約束を守り、居並ぶ諸大名の前で深々と頭を下げ、臣下の礼を取りました。その時の家康公の有名な逸話が「陣羽織」の話です。事実これ以降、家康公は、小田原北条攻めにおいても先陣を切り、関東平定にも大活躍をしました。ただ、朝鮮出兵に関しては反対の立場を取り続け、徳川軍が渡海することはありませんでした。



大坂城(大阪市)

**問題61**

同じく天正14年(1586年)、家康公は遠江からどこに居城を移したでしょうか？

- (1) 江戸城 (2) 小田原城  
(3) 駿府城 (4) 松本城

解答… (3)

**解説**

家康公にとって、幼少期を遅しく育った駿府は第二の故郷でもあったのでしょうか。三河・遠江・駿河・甲斐・信濃の5ヶ国を治める家康公にとって、駿府はその中心となる重要な拠点でもありました。城郭を整備し、天守閣も造営しましたが、火事により二度も焼失してしまいます。後に隠居後も大御所として駿府で過ごしましたので、静岡市の人たちにとっても家康公は「故郷を代表する人物」として崇敬されています。



駿府城(静岡市)

**問題62**

天正18年(1590年)、家康公が先鋒を務めた、秀吉の最後の平定戦ともいえる小田原攻めの相手はどれでしょうか？

- (1) 上杉景勝 (2) 伊達政宗  
(3) 北条氏政 (4) 最上義光

解答… (3)

**解説**

小田原城を居城に、北条早雲以来関東の雄として君臨してきた北条氏ですが、氏政が最後まで豊臣秀吉に従わなかったため、ついに滅んでしまいました。家康公は娘の督姫を氏政の嫡子・氏直に嫁がせていたため、当初は裏切るのではないかと疑われたようですが、徳川軍自らが先鋒を務め、その疑いを晴らしたと伝えられます。督姫は氏直の助命を嘆願し、そのかいあって高野山に流罪となりました。氏直が死去すると、池田輝政の正室となり池田家繁栄の元を築きました。



小田原城(小田原市)

**問題63**

小田原攻めの最中に、家康公は秀吉から国替えを命じられましたが、新しい家康公の領国はどこでしょうか？

- (1) 京・大坂
- (2) 関東6ヶ国
- (3) 信越4ヶ国
- (4) 東北5ヶ国

解答… (2)

**解説**

武蔵・相模・伊豆・上総・下総・上野の6ヶ国に国替えとなりました。これらの国は旧北条氏の領国でもあり、石高は約150万石から250万石に増加しましたが、一揆などの心配がありました。徳川の勢力を弱めようとする秀吉の狙いがあったと言われています。家康公は本拠地を江戸と定め、周辺の主要拠点には側近や重臣たちを配置しました。一揆の勃発を防ぐために、これまでの北条氏の民政をできるだけ踏襲させ、さらに税を抑え、開発事業を進め、善政を厳しく命じたのです。



慶長江戸図(東京都中央図書館/港区)

**問題64**

同じ年の8月1日、家康公は江戸城に入城。後に幕府はこの日を特別な日として定め祝い事を行いました。この日はなんと呼ばれたのでしょうか？

- (1) 夏至
- (2) 処暑
- (3) 大安
- (4) 八朔

解答… (4)

**解説**

家康公の「江戸お打ち入り」と呼ばれます。天正18年(1590年)8月1日(朔日)に決行したので「八朔」と言いますが、幕府は正月に次いで大切な日と定め、この日には祝い事が各地で催されたようです。家康公は江戸城に入ると、古びた城の修築は後回しにし、知行割・検地・町割・灌漑・治水など多方面に渡る領国経営を積極的に行いました。その結果、江戸には故郷の岡崎を始め、各地から多くの商人や職人が集まり、当時世界一大都市に成長する基礎を築いたのです。



江戸名所図会八朔(江戸東京博物館/墨田区)



**問題65**

家康公の国替えにより岡崎城主となった豊臣の重臣で、岡崎のまちづくりを積極的に進め、二十七曲りのもとをつくり、現在、岡崎中心部にある籠田公園の前に石像が建つ武将はだれでしょうか？

- (1) 石田三成
- (2) 田中吉政
- (3) 福島正則
- (4) 本多康重

解答… (2)

**解説**

関白豊臣秀次の宿老(最も重要な地位の家老)であった田中吉政は、秀吉の信頼も厚い武将でした。岡崎・西尾の城主として8万石ほどの石高を有していました。吉政は岡崎城天守閣の建設を始めとして惣堀を開削し、「惣構え」と呼ばれる、武家や商家を取り込んだ城郭を建設したのです。岡崎城郭の東には「籠田総門」、西には「松葉総門」を設け、現在もその跡に石のモニュメントや石碑が建っています。また乱流する矢作川の築堤工事を進めたことも忘れてはならない業績の一つです。



田中吉政石像(岡崎市籠田町)

**問題66**

文禄元年(1592年)、秀吉が起こした朝鮮出兵(文禄の役)で、家康公はどこまで出陣したでしょうか？

- (1) 朝鮮の平壤(ピョンヤン)
- (2) 朝鮮の漢城(ソウル)
- (3) 朝鮮の釜山(プサン)
- (4) 肥前・名護屋(佐賀県唐津市)

解答… (4)

**解説**

文禄元年(1592年)、家康公は1万5千の兵を率いて肥前・名護屋城に到着しました。これよりおよそ1年半、この地で過ごすこととなりますが、主な役目は前田利家と共に名護屋城を警護する役目であったようです。名護屋城の「竹の丸」に本陣を置き、明国の来襲に備えたと伝えられています。文禄2年、秀頼が誕生すると秀吉は一旦兵を引き揚げることにしました。家康公らもこれに従って京まで戻りました。これ以後、慶長の役では名護屋城に赴くことはありませんでした。



家康公本陣竹の丸跡(名護屋城/唐津市)

**問題67**

文禄2年(1593年)、家康公は文禄の役に出陣中と、江戸に帰ってからの2度にわたり、高名な儒学者を招き「貞観政要(唐の皇帝・太宗の言行録)」を講じさせました。この儒学者はだれでしょうか？

- (1) 茶屋清延
- (2) 天海
- (3) 藤原惺窩
- (4) 本阿弥光悦

解答… (3)

**解説**

近世儒学の祖といわれた儒学者です。永禄4年(1561年)、兵庫県の三木市に冷泉家の子として生まれ、京に上り朱子学や老荘思想を学びました。後に京学派と呼ばれる独自の儒学を大成させます。家康公は惺窩から「貞観政要」を学びました。この教えの根幹にあるのは「守成」という考え方で、民の安心・安全を為政者として守り抜くという意味です。家康公はこの哲学に深く感銘し、仕官を強く要請しましたが、惺窩は固辞し、代わりに高弟である林羅山を推挙したのです。



藤原惺窩像(三木市)

**問題68**

文禄3年(1594年)、家康公は伏見に滞在中、著名な剣豪から「新陰流」の奥義を伝授されますが、それはだれでしょうか？

- (1) 伊藤一刀齋
- (2) 佐々木小次郎
- (3) 宮本武蔵
- (4) 柳生石舟齋

解答… (4)

**解説**

柳生新陰流の継承者で、柳生石舟齋宗厳といえます。文禄3年(1594年)、京都の鷹ヶ峰にいた石舟齋から「無刀取り」の極意を学んだと伝えられます。これは武士として、むやみに刀を抜くことなく相手に勝利する極意であり、武士による政権でありながら平和な国家を創り上げる思想の原点ともなりました。家康公は藤原惺窩と同様に強く仕官を求めましたが、高齢を理由に断られてしまいました。代わりに仕官をしたのが石舟齋の五男である、柳生宗矩です。



柳生石舟齋「一刀石」(柳生の里/奈良市)

**問題69**

秀吉が、家康公をはじめ諸大名を集めて「宝自慢」をしたときのこと、家康公が自分の「宝」だと答えたものはなんだったのでしょうか？

- (1) 自分のためには命を惜しまない家臣
- (2) 初花の茶器
- (3) 備前長船の名刀
- (4) 南蛮渡来の壺

解答… (1)

**解説**

徳川譜代の家臣たちの俸禄は、決して多いとは言えませんでした。これは、常に思う者はほとんどいませんでした。これは、常日頃から家康公自身が学問、武道の鍛錬、粗衣粗食に心がけ、率先垂範したからでしょう。ドラマなどで豪華な食事を惜しげもなく食している姿は大きな誤りです。本多忠勝はその遺訓で、「武士道とは、敵の首を上げることでなく、主君の傍で死を共にすることだ」と述べています。このような家臣が家康公にとっての「宝」であったでしょう。



本多忠勝像  
(良玄寺/千葉県夷隅郡大多喜町)

**問題70**

文禄4年(1595年)、家康公は、秀吉の側室・淀殿の妹を三男・秀忠の嫁に迎えました。2011年のNHK大河ドラマ「姫たちの戦国」の主人公でもあるこの女性はだれでしょうか？

- (1) お江(小督)
- (2) お吟
- (3) お初
- (4) 和宮

解答… (1)

**解説**

お江にはいくつもの別称があり、お江よりも呼ばれます。これは二代将軍・秀忠に嫁ぎ、「江戸に与えられた」という意味で名付けられたともいわれます。浅井三姉妹(長政とお市の方の子)の末娘で、長姉は秀吉の側室・淀殿、次姉は京極高次の妻・お初です。秀忠との間には五人の女子と二人の男子を設けました。長男が三代将軍・家光ですが、二男の国千代を可愛がり、竹千代(家光)の乳母、春日局と対立したことで有名です。家康公がお江に宛てた子育てについての手紙が「庭訓状」として残されています。



お江(養源院/京都市)

**問題71**

ぶ け せい じ せい じ せい じ せい じ せい じ せい じ  
 武家政治を学ぶため、家康公が手元に置いて愛読  
 していた本で、鎌倉幕府が制作した歴史書はなん  
 でしょうか？

- (1) 吾妻鏡
- (2) 古事記
- (3) 解体新書
- (4) 大日本史

解答… (1)

**解説**

ひら ぶ し せい けん かくりつ せい じ  
 鎌倉幕府を開き武士政権を確立させた源  
 よりとも ぞん けい  
 頼朝を尊敬する家康公は、慶長9年(1604  
 年)に『吾妻鏡』(鎌倉幕府が編纂した歴史書)の写本  
 の一つを入手すると、自身の愛読書とするだけでな  
 く、よくねん ふし み ばん き かつ じ もち あづま  
 翌年には伏見版の木活字を用い、タイトルを『東  
 かがみ しん かん しゅう ばん おこな りょう ち  
 鏡』とした『新刊吾妻鏡』の出版を行いました。領地  
 をもち領民を支配する大名や武士たちにもこの本に  
 ふ  
 触れてもら  
 いたかった  
 のです。家  
 康公の志は  
 その後も受  
 け継がれ、  
 はん き ばん  
 版木版の吾  
 妻鏡も出版  
 されました。



源頼朝生誕地碑(名古屋市熱田区)

**問題72**

とよとみ せい けん うん えい まえ だ とし いえ もう り て る  
 豊臣政権を運営した家康公や、前田利家、毛利輝  
 元など有力な5人の大名のことをなんと呼ぶで  
 しょうか？

- (1) 五摂家
- (2) 五大臣
- (3) 五大老
- (4) 五中老

解答… (3)

**解説**

もん だ い ちゅう う き た ひ で い え う え す き が げ かつ  
 問題中の3人に宇喜多秀家、上杉景勝を  
 加えた5人が五大老です。豊臣政権の実務  
 は五奉行が執っていたので、五大老は顧問のよう  
 なものでした。文禄2年(1593年)に淀殿が秀頼を  
 出産すると、秀吉は実子秀頼への政権の継承に固執  
 するようになり、文禄4年  
 にそれまで後継者として  
 いた関白秀次を高野  
 さん せつ ぶく い ち ぞく ぜん  
 山で切腹させ、一族全  
 員を死刑にしました。  
 慶長3年(1598年)にな  
 ると、秀吉は急な体力  
 の衰えに悩み、五大老  
 の制度を設け、秀頼へ  
 の忠誠を誓わせたので  
 す。



前田利家像(金沢市)

**問題73**

慶長3年(1598年)、第2次朝鮮出兵中に秀吉が亡くなり、家康公は、朝鮮で戦っていた兵をどうしたのでしょうか？

- (1) 急いで総攻撃をさせた
- (2) すぐに引きあげさせた
- (3) そのまま守らせた
- (4) 武将たちの自由にさせた

解答… (2)

**解説**

秀吉没後、家康公の最大の懸案が朝鮮侵略の後始末でした。早急な撤兵が必要となりましたが、この時の派兵は総数14万人を超え、混乱回避のため秀吉の死は秘密にされ、朝鮮従軍の諸将には作戦変更による撤退とだけ告げられました。文禄・慶長の役の戦死者は合計7万人と推測され、当時の人口が推定1,200万人ですから、人口比で考えると現在では70万人が戦死したことになり、社会に与えた影響は甚大でした。もちろん、戦場となった李氏朝鮮国の被害は未曾有のものです。



朝鮮出兵の名護屋城跡(唐津市)

**問題74**

秀吉の死後、五奉行の筆頭格で、家康公と対立したのはだれでしょうか？

- (1) 石田三成
- (2) 加藤清正
- (3) 島津義弘
- (4) 豊臣秀頼

解答… (1)

**解説**

13才で秀吉に仕え豊臣政権の実務を担ってきた石田三成にとって、秀吉亡き後の家康公の存在は邪魔なものでした。信長、秀吉の盟友として一時代を築いた家康公の存在は巨大で、幼い秀頼を頂点とする政権を安定させるには家康公を排除するしかないと考えたのです。その三成の前にはなかったのが、加藤清正や福島正則ら豊臣七武将です。命がけの朝鮮出兵を安全な場所にいた三成が誹謗したこと、秀吉正妻の北政所をないがしろにすることは許せませんでした。



石田三成像(龍譚寺/彦根市)

**問題75**

慶長4年(1599年)、伏見城にいた家康公は、戦乱の世を平和に変えるために教育の必要性を思い、あることを始めました。あることとはなんでしょうか？

- (1) 武器の回収
- (2) 中国との貿易
- (3) 本の出版
- (4) 小判の鋳造

解答… (3)

**解説**

家康公が出版した本は『貞観政要』や『孔子家語』など善政や儒学についての本でした。戦国時代が130年も続いた原因は、武将たちが倫理や道徳を知らないからだと考えたのです。10万余の木活字を作り、日本初の大規模で本格的な活字出版を行いました。この時の本を『伏見版』といいます。また、慶長12年(1607年)からは銅の活字を10万余鋳造し、こちらは『駿河版』と呼ばれています。日本で初めての情報革命は家康公によって成し遂げられたのです。



駿河版銅活字(凸版印刷株式/文京区)

**問題76**

慶長5年(1600年)、オランダ船リーフデ号が漂着。航海長のウィリアム・アダムス、航海士のヤン・ヨーステンと大坂城で会った家康公は、彼らをどうしたでしょうか？

- (1) 外交の相談役として、江戸に住ませた
- (2) すぐに日本から追放した
- (3) 大坂で処刑した
- (4) キリスト教徒なので長崎の出島に閉じ込めた

解答… (1)

**解説**

ウィリアム・アダムスはイギリス人で、ヤン・ヨーステンはオランダ人です。それまで南蛮貿易を独占してきたポルトガルは、貿易とキリスト教の布教を不可分としたのに対し、プロテスタント国家のオランダとイギリスは、布教が禁止されても貿易ができればよいという立場をとったので、日本の貿易相手国はポルトガル、スペインからオランダ、イギリスへと急速に変わって行きました。ヤン・ヨーステンの邸跡が八重洲の語源です。



ウィリアム・アダムス(日本名 三浦按針)像(伊東市)

**問題77**

慶長5年(1600年)、家康公の政治に反対し命令を聞かない上杉景勝を征伐するため、家康公らが向かったのはどこでしょうか？

- (1) 会津 (2) 越後  
(3) 薩摩 (4) 土佐

解答… (1)

**解説**

家康公が上杉景勝の居城がある会津に出陣すれば、石田三成の挙兵は自明のことでした。景勝と三成は連絡を取り合っていたのです。家康公討伐の書状を西軍の大名たちに回した三成が、まず血祭りに上げたのは伏見城でした。留守居役の鳥居元忠は家康公に三成挙兵の知らせを送ると壮絶な最期を遂げたのです。また三成は、家康公と共に会津に向かった豊臣大名たちの妻子を大坂城に軟禁して人質としました。細川忠興夫人のガラシアは人質より死を選び、屋敷に火を放ちました。



伏見城模擬天守(京都市)

**問題78**

福島正則、池田輝政らの豊臣大名たちが、家康公に味方して共に石田三成らと戦うことを決定した評定(会議)を、その地名からなんといいましょうか？

- (1) 小田原評定 (2) 小山評定  
(3) 箱根評定 (4) 伏見評定

解答… (2)

**解説**

三成挙兵を家康公から告げられた豊臣大名たちの心は、秀吉の遺児・秀頼への恩顧の思いと、三成の身勝手な挙兵に対する怒りの間で揺れ動きました。家族を人質にとられた大名は簡単に結論を出せません。十分な思案の後、福島正則が口火を切って家康公支持を表明し、真田昌幸を除く全員が家康公に味方することを決めました。関ヶ原の合戦の序章は豊臣大名たちの苦悩だったのです。



小山評定地碑(小山市)

## 問題79

関ヶ原の合戦の最中、どちらに味方するかはつきりしない西軍の小早川秀秋に、家康公はあることをして東軍に寝返りをさせました。あることとはなんでしょうか？

- (1) 味方になるよう家康公が怒鳴った
- (2) 小早川軍の陣地に鉄砲を撃ちかけた
- (3) 徳川四天王の本多忠勝を説得に行かせた
- (4) 小早川秀秋の家族を人質にした

解答… (2)

## 解説

小早川軍が布陣していたのは合戦の要となる場所でした。家康公に味方すると約束したのに小早川軍は動きません。西軍側に付くのなら先ず小早川軍を殲滅するという意思表示として鉄砲を撃ちかけたのです。これにより小早川軍は意を決し東軍側として石田三成の西軍に攻めかかりました。これにより関ヶ原の合戦は大きく動き、戦の大勢は決まりました。関ヶ原の合戦の勝利は家康公の瞬間の決断が大きく作用したといわれる所以です。



関ヶ原家康公本陣跡  
(岐阜県不破郡関ヶ原町)

## 問題80

関ヶ原の合戦が終わって5日後、家康公と三男の秀忠は大津にいましたが、家康公は秀忠を怒って会いませんでした。家康公の怒っていた理由は何でしょうか？

- (1) 関ヶ原の決戦に秀忠が間に合わなかったから
- (2) 秀忠の軍だけが西軍に負けていたから
- (3) 見ていただけで戦わなかったから
- (4) 東軍を裏切って西軍に味方したから

解答… (1)

## 解説

秀忠が関ヶ原の合戦に遅れた理由は真田昌幸の軍に踊らされ、信州上田城の攻略に手間取っていたからでした。関ヶ原の合戦は日本の未来を決める重大な戦であるのに、後継者と考えている秀忠が、事の軽重の判断ができなかったのが家康公には情けなかったのです。どこで判断を間違えたのかを秀忠に考えさせたのと同じに、東軍に付いた大名たちに、公私混同をする秀吉とは全く違う公平で厳格な家康公の姿勢を示したのです。



徳川秀忠像(松平西福寺/台東区)



**問題81**

関ヶ原の合戦で勝利した家康公は、味方した大名に領地を分け与えますが、家康公がたくさん領地を与えたのはどのような大名だったのでしょうか？

- (1) 徳川家や松平家の一<sup>いち</sup>族<sup>ぞく</sup>
- (2) 三河<sup>みかわ</sup>武<sup>ぶ</sup>士<sup>し</sup>
- (3) 関東<sup>かんとう</sup>の大名
- (4) 豊臣<sup>とよとみ</sup>家の家臣<sup>けしん</sup>だったのに家康公に味方した大名

解答… (4)

**解説**

家康公に味方した豊臣大名の多くは朝鮮出兵でひどく疲弊し、関ヶ原の合戦では身勝手な石田三成を討ち果たしたものの、秀吉遺児・秀頼に対する釈然としない思いが残っていました。

家康公はその気持ちを汲んで、豊臣大名への恩賞を厚くしたのです。恩賞でつながる傾向にある豊臣大名から信用されることが必要でした。三河武士を始めとする譜代大名たちと家康公の間に深い絆が無ければ、こうした論功行賞は行えません。



福島正則像(東京大学史料編纂室)

**問題82**

慶長6年(1601年)、江戸と京・大坂を結ぶ東海道の整備を始めた家康公は、各宿場に何頭かの馬を置くように決めました。この制度をなんというのでしょうか？

- (1) 貨幣<sup>かへい</sup>制度
- (2) 鎖国<sup>さこく</sup>制度
- (3) 伝馬<sup>でんま</sup>制度
- (4) 身分<sup>みぶん</sup>制度

解答… (3)

**解説**

馬を次いで宿場から宿場へ情報運んだのが伝馬の制度です。安定した国家を建設するには通信網の整備が不可欠です。同時に街道と宿場が整備され、日本で初めての本格的な情報通信網の整備と交通・流通の基盤整備は家康公の手で行われたのです。開幕から100年たった元禄時代に江戸への旅をしたオランダ商館の医師ケンペルは、数多くの庶民が旅を楽しんでいることに驚嘆しています。同時代のヨーロッパでは庶民が旅をすることなど不可能だったのです。



「伝馬の制」石像(岡崎市伝馬通)

**問題83**

慶長8年(1603年)、家康公は後陽成天皇より、幕府を開くことのできる役職に任じられました。この役職はなんでしょうか？

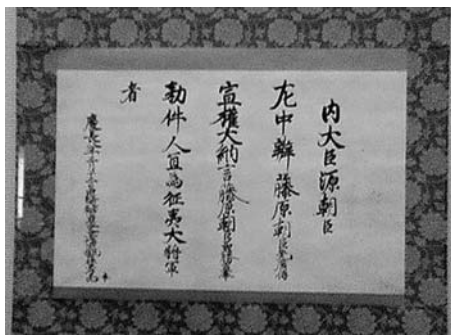
- (1) 征夷大將軍
- (2) 摂政
- (3) 関白
- (4) 太政大臣

解答… (1)

**解説**

幕府を開くことができるのは征夷大將軍、源氏の血筋にだけ許される役職です。家康公が朝廷に、松平氏初代・親氏が新田源氏の支流徳川氏の出自であることを根拠に、徳川復姓を願い出て許可されたのは岡崎在城時代の永禄9年(1566年)のことでした。この時代の家康公はまだ25才の若輩で、織田信長と清州同盟は結んだものの、信長の風下に位置する弱小大名にすぎない存在でした。將軍

就任の37年も前の徳川復姓は、若い家康公の大きな夢と高い志によるものでした。



征夷大將軍宣旨(日光東照宮/日光市)

**問題84**

慶長8年(1603年)、家康公が幕府を開いた場所はどこでしょうか？

- (1) 江戸
- (2) 岡崎
- (3) 京
- (4) 伏見

解答… (1)

**解説**

室町幕府も豊臣政権も絢爛な公家文化に近過ぎたところに問題がありました。政権の安定は平和な世に欠かせません。庶民が心穏やかに暮らせれば、経済や文化は自ずと発展し、国政は良い回転に入ります。京や伏見では問題外、岡崎でも京に近過ぎたのです。鎌倉幕府や室町幕府を開くのに三河武士が大きな役割を果たしたのは京に近い位置にいたからです。安定のためには適度な距離が必要です。江戸はその条件に適った土地でした。



江戸城址(千代田区)

**問題85**

慶長8年(1603年)、徳川と豊臣<sup>あがそ</sup>の争いがないことを願<sup>ねが</sup>い、豊臣秀吉との約束を守り、家康公は孫娘<sup>まごむすめ</sup>を豊臣秀頼に嫁がせました。この孫娘(徳川秀忠の長女)の名前はなんというのでしょうか？

- (1) 五郎八姫 (2) 亀姫  
(3) 千姫 (4) 千代姫

解答… (3)

**解説**

千姫の母のお江(小督)は淀殿の実の妹です。千姫と秀頼が結婚をすれば、豊臣と徳川は親戚関係、家康公は秀頼の義理の祖父となります。家康公はこの結婚で豊臣と和解したかったのですが、淀殿は心を開きません。関ヶ原の合戦で天下の趨勢は決し、家康公は征夷大將軍に叙任、豊臣と徳川の立場は逆転しているのに、淀殿はそれを認めないのです。母・お市の方の実兄の織田信長に戦で負けた父・浅井長政が、妥協を拒み自ら死を選んだことがトラウマとなっていたのかも知れません。



千姫(弘経寺/茨城県常総市)

**問題86**

慶長8年(1603年)、後の徳川<sup>のち</sup>ご三家<sup>さんけ</sup>のひとつ、水戸徳川家の初代・頼房<sup>み</sup>が生まれましたが、長男の信康からこの頼房まで、家康公には何人の男の子がいたのでしょうか？

- (1) 3人 (2) 9人  
(3) 11人 (4) 16人

解答… (3)

**解説**

長男・信康は信長から自刃を命じられ、次男・秀康は秀吉の養子に、三男・秀忠が家康公の後を継いで二代將軍に就任しました。四男・忠吉と五男・信吉は28才と21才で若死にし、六男・忠輝は秀忠の命で流罪謹慎。七男・仙千代と八男・松千代はともに6才で夭逝し、九男・義直は尾張藩の、十男・頼宣が紀州藩の、十一男・頼房は水戸藩の藩祖となり、御三家として將軍を補完してゆきます。家康公はこの3人を14、5才になるまで駿府に置いてじっくりと教育し御三家を興させたのです。



徳川義直像(徳川美術館/名古屋市東区)

**問題87**

慶長10年(1605年)、家康公は三男の秀忠を二代將軍にしましたが、2年で將軍を子供に譲った一番の理由はなんだったのでしょうか？

- (1) 天下の行方を示し、天下を安定させるため
- (2) 高齢で將軍の仕事ができないため
- (3) 病気で思うように動けなくなったため
- (4) 隠居して早く好きなことをしたかったため

解答… (1)

**解説**

朝廷は万世一系の家柄。その朝廷から国政を任せられた徳川の血筋が、二代続いて征夷大將軍に任官すれば、征夷大將軍は徳川家の専任と大名たちが認識し、社会は安定に向かいます。織田信長の実権は、將軍・足利義昭を奉じ入京してから本能寺の変までの14年間だけ。その後を継いだ豊臣政権は秀吉が亡くなるまでの16年間だけ。戦国時代から関ヶ原の合戦までの間、庶民が待ち望んだのは心穏やかな平和な暮らし。家康公はそれを実現したのです。



家康公主催の「豊国礼祭園」  
(豊国神社／京都市)

**問題88**

家康公は將軍を辞した(やめた)あと、なんと呼ばれるようになったのでしょうか？

- (1) 大御所
- (2) 黄門
- (3) 上皇
- (4) 太閤

解答… (1)

**解説**

駿府城に退いた家康公は、江戸の二代將軍・秀忠とともに、実務は新將軍の秀忠が担い、長期的な政治体制づくりは家康公が担当する二元政治を行いました。駿府城では南光坊天海や金地院崇伝はじめ数多くの知識人と交わり、日本の将来像を模索していたのです。

大御所とは、ももとは隠居した親王の尊称でしたが、鎌倉時代以降は前將軍の尊称として定着し、江戸時代をとおり、家康公以外にも二代・秀忠、八代・吉宗、十一代・家齊が大御所として政治の実権を握っています。



南光坊天海像(輪王寺／日光市)

## 問題89

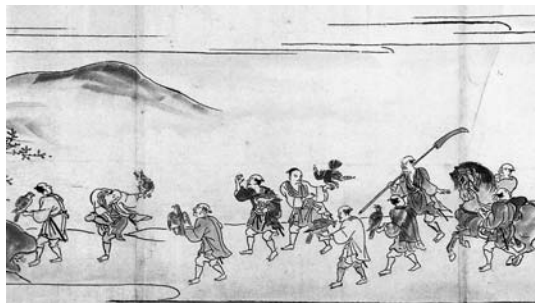
戦の訓練や領内の見回りなどを兼ね、家康公が好んで行っていたことはなんでしょうか？

- (1) 歌会 (2) 将棋  
(3) 鷹狩り (4) 茶会

解答… (3)

## 解説

野山を駆け巡る鷹狩りは家康公自身の足腰の鍛錬となっただけでなく、武士たちの軍事訓練ともなりました。また、庶民の暮らしぶりを目にするのが民政に生かせるなど、現実主義者の家康公の気性に合い、終生の趣味となりました。家康公が鷹匠を近侍させ重用したのは、その職業柄、家康公が必要とした民間情報を豊富に持っていたからです。初夢として縁起の良い「一富士、二鷹、三なすび」は家康公の好みに由来するという説があります。



鷹狩り図

## 問題90

慶長12年(1607年)、家康公の平和友好政策が実り、朝鮮との国交が回復。第1回の朝鮮通信使が日本を訪れました。江戸時代、12回の通信使が日本に来ましたが、岡崎藩が、この朝鮮通信使を接待した場所はどこだったのでしょうか？

- (1) 岡崎城天守閣  
(2) 藩の迎賓館の御馳走屋敷  
(3) 松平家の菩提寺の大樹寺  
(4) 岡崎宿の本陣

解答… (2)

## 解説

朝鮮通信使(500人規模の使節団)の岡崎での接待は藩の迎賓館の御馳走屋敷(伝馬通1-78辺り・岡崎信用金庫資料館の南)で行われました。江戸幕府はここで公式の出迎えを行ったのです。李氏朝鮮国との国交を築いた家康公の生誕地である岡崎を朝鮮通信使も特別の土地と考えていたようです。天和2年(1682年)の第7次朝鮮通信使の報告書では、接待を担当した岡崎藩士の鳥山牛之助のことを、「最も懇切丁寧な接待をしてください」と記しています。



御馳走屋敷跡付近(岡崎市伝馬通)

**問題91**

関ヶ原の合戦から14年後の慶長19年(1614年)と20年(1615年)に行われた大坂の陣で、家康公ら幕府軍に敗れ自害した大坂城の城主はだれでしょうか？

- (1) 石田三成 (2) 片桐且元  
(3) 真田幸村 (4) 豊臣秀頼

解答… (4)

**解説**

大坂の陣ほど家康公を精神的に苦しめた戦はありませんでした。千姫との婚姻時の秀頼は11才の少年でしたが、大坂夏の陣の時は23才の男盛り。家康公はこれまでに何度も手を差し伸べてきましたが、淀殿は拒み続け、秀頼はそれに従いました。人生50年といわれた時代に、関ヶ原の合戦時に59才だった家康公は、豊臣との和解を願い14年間も待ち続け、74才の老人となっていたのです。大坂城は落城し、秀頼と淀殿は自害、千姫は猛火の中から助け出されました。



豊臣秀頼像(養源院/京都市)

**問題92**

慶長20年(1615年)大坂夏の陣が終わると、慶長という元号が、家康公の意向により「平和の始まり」を意味する元号に変わりました。その元号とはなんでしょうか？

- (1) 享保 (2) 元和  
(3) 平和 (4) 泰平

解答… (2)

**解説**

大坂夏の陣が終わった時、家康公は元号を「和」の「元」として「元和」に改め、平和な時代の到来を「元和偃武」として天下に宣言しました。「偃武」とは、『書経』の中にある「偃武修文」から採り、「武器を納めて文を修める」、つまり、戦いをやめ、学問・教育により平和な世をつくるという意味です。応仁の乱から150年も続いた戦争の時代の終結宣言は、武士に武から文への意識改革を求めるものであり、平和な時代の幕開けを告げるものとなりました。

平和の象徴でもある花火は、鉄砲隊の火薬の平和利用から始まりました。



三河花火と岡崎城(岡崎市康生町)

**問題93**

同じ年、家康公が秀忠の名前で出した法律で、大名や旗本など武士が守るべきことを定めたものはどれでしょうか？

- (1) 禁中並公家諸法度
- (2) 御成敗式目
- (3) 生類憐みの令
- (4) 武家諸法度

解答… (4)

**解説**

従来は私的な服属関係を誓約する誓紙だったものを、家康公の命令で金地院崇伝と林羅山が法律として13ヶ条の条文に編纂しました。その中身は、1. 文武の奨励、2. 遊樂の禁止、3. 犯罪者隠匿の禁止、4. 謀反人・殺害人の追放、5. 他国人の追放、6. 居城の修補や新造の禁止、7. 隣国の徒党者の上訴、8. 無断婚姻の禁止、9. 参勤作法の指示、10. 衣装の統制、11. 乗輿(乗り物に乗ること)の制限、12. 儉約の奨励、13. 家老らの人選の適正化、でした。



武家諸法度(金地院/京都市)

**問題94**

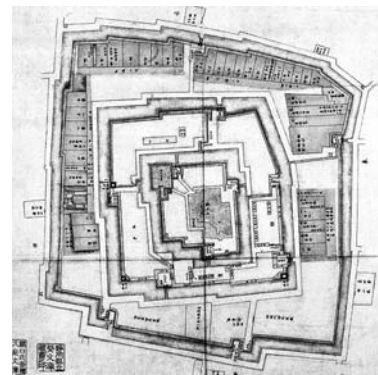
1616年4月17日、家康公死去。亡くなった場所はどこでしょうか？

- (1) 江戸城
- (2) 岡崎城
- (3) 駿府城
- (4) 伏見城

解答… (3)

**解説**

天文11年(1542年)12月26日、三河の弱小大名の長男として岡崎城で誕生した家康公は、駿府城において75年におよぶ波乱万丈の人生の幕を下しました。家康公が開いた江戸時代の特徴は265年にわたる安定した平和です。明治維新から現在までが142年間。この間に、日清、日露戦争から太平洋戦争まで、何度も戦争を経験し多くの人命が失われてきました。江戸時代が生み出した日本文化を考えると、明治維新とは日本にとって一体何だったのか皆で考えたいものです。



駿河国御城図(静岡県立中央図書館/静岡市)

## 問題95

遺言ゆいごんにより、家康公の遺体い たい ほうちが葬まうられたのはどこで  
しょうか？

- (1) 江戸湾わん (2) 岡崎城ふ じ さん  
(3) 久能山く のう さん (4) 富士山

解答… (3)

## 解説

家康公の遺体は久能山に葬られ、墓は真西にしを向むいています。久能山選定の理由について、神道学者で日光東照宮禰宜の高藤晴俊しんとうがくしゃ にっこうとうしやうぐう ねぎ たかふじはるとし氏は、北緯34度57分30秒上にある真西向きの墓ほく いに着目し、そのラインの先にあるのが鳳来寺山と岡崎城だとしています。鳳来寺山は子授け祈願を行った場所こさずき がん おこなで、岡崎城は生誕せいたんの地。太陽は東から昇り西に沈む。岡崎城と鳳来寺山を結ぶのは太陽の道ぼしよで、その先にある埋葬地の久能山は家康公が神として再生する場所かみ さいせいだったとしています。



家康公の墓(久能山/静岡市)

## 問題96

家康公の遺言で、岡崎の大樹寺に置くように命じられ、以来、歴代将軍の身長と同じ高さのものが祀まつられるようになったものはなんでしょうか？

- (1) 位牌いはい (2) 全身の絵ぜんしん え  
(3) 墓はか (4) 木像もくぞう

解答… (1)

## 解説

松平家の菩提寺である大樹寺には、遺言により家康公の位牌が置かれ、以後、歴代徳川将軍家の位牌所とくがわになったことから、家康公から十四代・家茂までの等身大の位牌が安置されています。歴代将軍の位牌を祀る寺院であるため寺格は高く、幕府の手厚い保護を受けました。三代将軍・家光は、家康公23回忌にあたる寛永15年(1638年)に大樹寺の大造営を命じ、同18年(1641年)までに多宝塔(松平七代・清康建立)を除く全58棟が新造されました。なお、十五代・慶喜の位牌が大樹寺にないのは彼が神道により葬られているからです。



大樹寺位牌堂(岡崎市鴨田町)



**問題97**

一周忌が終わった後、家康公は朝廷から東照大権現の神号を贈られ、日光に神社が建てられましたが、家康公を祀る神社のことをなんと呼ぶでしょうか？

- (1) 権現宮
- (2) 天満宮
- (3) 東照宮
- (4) 八幡宮

解答… (3)

**解説**

岡崎市内には全国東照宮連合会加盟社が3社あります。三代将軍・家光が正保元年(1644年)に創建した滝山東照宮と、松平家の氏神である伊賀八幡宮(家光が東照宮を勧請)、もうひとつは岡崎城天守閣に隣接する龍城神社です。本多忠勝を藩祖とする本多家が岡崎城本丸内に祀っていた東照宮と、映世大明神となった忠勝が合祀されています。家康公の神号の東照大権現とは、朝になると太陽が東の空を照らし昇ることから、世の人々を救うため家康公が神となり、姿を変えて再びこの世に現れることを意味しています。



龍城神社(岡崎公園内/岡崎市康生町)

**問題98**

信長、秀吉と家康公の三英傑を比較し、その三人三様の生きざまを“ほととぎす”で表わした川柳があります。家康公を表すのはどれでしょうか？

- (1) 鳴かぬなら、殺してしまえ、ほととぎす
- (2) 鳴かぬなら、鳴かせてみせよう、ほととぎす
- (3) 鳴かぬなら、鳴くまで待とう、ほととぎす
- (4) 鳴かぬなら、笑ってみせよ、ほととぎす

解答… (3)

**解説**

天下取りに挑んだ3人の性格を言い当てた秀逸な川柳です。「殺してしまえ」という怖い存在が信長で、強引に「鳴かせてみせよう」というのが秀吉です。それと比べ、「鳴くまで待とう」という家康公は穏健過ぎるという声もありますが、3人は今でいう政治家なのです。「鳴かせてみせよう」は一見リーダーシップが有りそうですが、朝鮮侵略に見るように独善的な政治で、困るのは国民です。鳴くまで待つ姿勢は他者をおもんばかり善政を本分とした家康公の生き様そのものです。



主祭神の家康公と併せ信長、秀吉も祀る久能山東照宮本殿(静岡市)

**問題99**

家康公の遺言の中に表された有名なことばは、次のうちどれでしょうか？

- (1) 難波のことも、夢のまた夢
- (2) 天下は一人の天下にあらず、天下は天下の天下なり
- (3) 天下布武
- (4) 天下は一日にして成らず

解答… (2)

**解説**

「難波のことも、夢のまた夢」は秀吉で、夢とは大阪での栄華を指しています。庶民の生活は視野には入らず、貧乏な昔を忘れ贅沢な生活を楽しみました。「天下布武」は信長で、戦国武将らしく自らの力を確信したものです。印鑑にもこの文字を彫り愛用していました。その点、家康公の遺言にあるこの言葉は、今の政治家に思い出して欲しい内容です。全文は「岡崎 家康公検定」の副読本『人生に役立つ観光ガイドブック』に掲載されています。



家康公遺言碑(岡崎公園)

**問題100**

家康公の遺訓は、「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし」で始まりますが、それに続くことばはなんでしょうか。

- (1) 急ぐべからず
- (2) 怒るべからず
- (3) なまけるべからず
- (4) 休むべからず

解答… (1)

**解説**

現代は全てにスピードを求める社会です。アメリカ型の金融資本主義が目目された頃からの傾向ですが、世界同時金融危機を経験した今もまだ改まってはいません。スピードが必要な場合もありますが、急ぎ過ぎると失敗が多いのも事実です。また、急ぎ過ぎは配慮に欠け、弱者に厳しい社会となりやすいことも認識すべきです。家康公の遺訓を座右の銘とする人は数多く、その内容は家康公の生き方そのものです。



家康公遺訓碑(岡崎公園)